

総合的な学習の時間の実施状況調査について

総合学習研究会では、日本教材文化研究財団の補助金を受け、平成12～13年の2か年にわたって、総合的な学習の時間の教材開発と授業展開に関する実証的研究を行っています。

本研究では、総合的な学習の時間の理論化と教材開発の新しい視点づくりを行い、総合的な学習の時間の授業モデルを提示するとともに、実践上の手引きとなるものを作成することを目指しています。その一環として、総合的な学習の時間の実施状況についてアンケート調査を行い、研究の実践性をより確かなものとするにいたしました。

調査は、今回は小・中・高等学校等から、合計1,340校を選び、平成12年3月に実施いたしました。回答数は、小学校・80校、中学校・113校、高等学校・164校、その他・19校でした。このたび、その結果が整理できましたので、小冊子にまとめ、関係者に配布することといたしました。ご活用いただければ幸いです。

なお、本調査のデータの整理は、千葉大学教育学部戸田善治助教授及び千葉大学大学院教育学研究科社会科教育専攻大学院生にお願いいたしました。

最後になりましたが、ご多用の中、アンケート調査にご協力いただいた各校に対し、あつく御礼申し上げます。

平成12年12月

総合学習研究会代表

星村 平和（帝京大学）

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、総合的な学習の時間の理論化と教材開発の新しい視点づくりを行い、総合的な学習の時間の実践上の手引きとなるものを作成するための基礎データを得ることを目的とする。

(2) 研究組織

氏名	所属	分担
星村 平和	帝京大学文学部教授	総括
工藤 文三	国立教育研究所室長	総合的な学習の時間の理論化
原田 智仁	兵庫教育大学教授	教材開発の視点づくり
市川 智史	滋賀大学教育学部助教授	環境教育の教材開発と実践事例の収集・分析
多田 孝志	目白学園中・高等学校教諭	国際理解の教材開発と実践事例の収集・分析
戸田 善治	千葉大学教育学部助教授	アンケートの作成と分析
谷田部 玲生	国立教育研究所室長	アンケートの作成と実践事例の収集・分析（国際理解）
永田 忠道	国立教育研究所研究員	アンケートの作成と実践事例の収集・分析（環境）

(3) 調査対象及び調査の実施

本調査では、すべての国立大学附属学校、及び都道府県庁所在地を中心とする大都市近郊の公立小・中・高等学校に協力を依頼し、すべての学校段階で、同一調査票にて調査を実施した。

調査の実施は、平成12年2月に、調査票及び回答用紙を各学校に郵送し、3月末日までに回答用紙のみを返送してもらう形式にて行った。回答の回収状況は、以下の通りである。

	国立	公立	合計
小学校	20/73 (27.4)	60/335 (17.9)	80/408 (19.6)
中学校	34/78 (43.6)	79/339 (23.3)	113/417 (27.0)
高校	9/19 (47.3)	155/449 (34.5)	164/468 (21.3)
その他	19/47 (44.2)	0/0 (0.0)	19/47 (40.4)
合計	82/217 (37.8)	294/1123 (26.2)	376/1340 (28.0)

※ 分母は調査票送付学校数、分子は回答学校数、カッコ内は回収率（%）を示す。

また、「その他」には、盲・聾・養護学校等が該当する。

2. データの整理について

本報告書は、いわば調査結果の速報版でもあるため、調査の分析結果ではなく調査データそのものを整理・公表することを目的としている。そこで、ここでは、データの整理を、「学校段階別集計」、「導入段階別集計」、「学校段階・導入段階クロス集計」、「自由記述」の六つの形式で行った。

「学校段階別集計」とは、小学校、中学校、高校という学校段階ごとにデータを整理したものである。なお、ここでは、学校段階の違いを考慮せず、データ全体を集計した「全体集計」も同時に示している。

また、各学校における総合的な学習の時間の導入時期別に、「導入段階別集計」を行った。具体的には、調査票の【1】で1を選択した学校を「導入済み」、2、3を選択した学校を「H12より」、4～7を選択した学校を「H13以降」、8を選択した学校及び無回答であった学校を「検討中等」として整理を行った。

さらに、「学校段階別集計」と「導入段階別集計」をクロスさせたものが「学校段階・導入段階クロス集計」である。具体的には調査票の【1】で1を選択した小学校を「小学校・導入済」、2～8を選択した小学校及び無回答小学校を「小学校・未導入」、1を選択した中学校を「中学校・導入済」、そして、2～8を選択した中学校及び無回答中学校を「中学校・未導入」として示している。なお、ここで「高校・導入」、「高校・未導入」を設定していないのは、「高校・未導入」にあまりにも片寄りすぎているためである。

本調査では、各調査項目の設問に対する回答を選択肢として用意し、その選択肢の中から該当するものを選んで答えていただくこととした。しかし、こちらの用意した選択肢では自校の実態と合致しない場合も考えられるため、選択肢の中に「その他」を用意し、そこに自由記述欄を用意したものもある。また、【8】、【9】、【25】のように、最初から選択肢を設けず、自由に記述してもらうことを前提とした設問を用意した。

そこで、これらの自由記述欄に記入された内容をそのまま記述する「自由記述」を設けた。なお、【11】、【16】は統計処理に適さない等の理由により、ここでは報告しないこととした。

以下、調査票の構成に即して、整理したデータを調査票に差し込む形で報告する。なお、本調査に関する問い合わせは以下までお願いします。

連絡先

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
千葉大学教育学部戸田善治研究室内
総合学習研究会事務局
TEL・FAX 043-290-2542
e-mail toda@e.chiba-u.ac.jp

「総合的な学習の時間」に関する実態調査 調査票

※ 回答に当たっての注意事項

1. 回答はすべて回答用紙にご記入ください。
2. 回答は、選択肢の番号をご記入ください。選択肢によっては、自由記述をお願いするものがあります。その選択肢を選ばれた場合、回答用紙の自由記述欄にご記入をお願いします。
3. 回答用紙のみを、返信用封筒にてご返送ください。調査票をご返送いただく必要はありません。
4. 返信用封筒に、学校名、住所をご記入ください。調査の結果は報告書の形にとりまとめ、送付させていただきます。これは、あくまでも調査結果をお送りするためにのみ活用させていただきます。この調査のとりまとめにあたっては、学校名が明らかにされることはありません。
5. **2000年3月末日までにご返送ください。**

I. 準備状況

【1】あなたの学校では、何年度から「総合的な学習の時間」を教育課程に組み込む予定ですか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 既に導入している。
2. 平成12年度から一部の学年で導入予定である。
3. 平成12年度から全学年で導入予定である。
4. 平成13年度から一部の学年で導入予定である。
5. 平成13年度から全学年で導入予定である。
6. 平成14年度から全学年で導入予定である。
7. 平成15年度から導入予定である。
8. 現在検討中である。

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. すでに導入	21.5	45.0	31.0	3.0	31.6
2. H12年度から一部学年	12.2	11.3	20.4	7.9	5.3
3. H12年度から全学年	26.6	43.8	44.2	5.5	26.3
4. H13年度から一部学年	4.3	0.0	0.9	9.1	0.0
5. H13年度から全学年	1.6	0.0	1.8	2.4	0.0
6. H14年度から全学年	2.4	0.0	0.9	4.9	0.0
7. H15年度から	15.2	0.0	0.0	34.8	0.0
8. 検討中	15.7	0.0	0.9	31.1	36.8
無回答	0.5	0.0	0.0	1.2	0.0

全体 N=376

小学校 N= 80

中学校 N=113

高校 N=164

その他 N= 19

以下の設問には、すでに導入している学校はその実態をお答えください。まだ導入していない学校は現在の状況についてお答えください。

【2】あなたの学校では、「総合的な学習の時間」のカリキュラムや指導體制について、どのような組織で検討を進めていますか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 既存の校務分掌組織を活用している。(名称)
2. 既存の校務分掌組織の中に「総合的な学習の時間」の担当を設けた。
3. 新たにプロジェクトチーム(委員会など)を組織した。
4. 検討中である。
5. その他

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 既存組織を活用	32.4	40.0	32.7	28.0	36.8
2. 既存組織に「総合」担当を新設	14.4	32.5	15.9	5.5	5.3
3. プロジェクトチームを組織	29.5	20.0	41.6	27.4	15.8
4. 検討中	19.9	5.0	6.2	36.6	21.1
5. その他	2.4	2.5	2.7	0.6	15.8
無回答	1.3	0.0	0.9	1.8	5.3

全体 N=376

小学校 N= 80

中学校 N=113

高校 N=164

その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 既存組織を活用	44.4	32.2	22.7	31.1
2. 既存組織に「総合」担当を新設	22.2	19.9	4.5	4.9
3. プロジェクトチームを組織	25.9	37.0	27.3	19.7
4. 検討中	2.5	8.2	43.2	37.7
5. その他	4.9	2.1	0.0	3.3
無回答	0.0	0.7	2.3	3.3

全体 N=376
 導入済 N= 81
 H12より N=146
 H13以降 N= 88
 検討中等 N= 61

- ※ 導入済 【1】で1を選択した学校
 H12より 【1】で2, 3を選択した学校
 H13以降 【1】で4～7を選択した学校
 検討中等 【1】で8を選択した学校及び無回答校

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 既存組織を活用	36.1	43.2	48.6	25.6
2. 既存組織に「総合」担当を新設	36.1	29.5	11.4	17.9
3. プロジェクトチームを組織	25.0	15.9	34.3	44.9
4. 検討中	2.8	6.8	0.0	9.0
5. その他	0.0	4.5	5.7	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0	1.3

小学校導入済 N= 36
 小学校未導入 N= 44
 中学校導入済 N= 35
 中学校未導入 N= 78

- ※ 小学校・導入済 【1】で1を選択した小学校
 小学校・未導入 【1】で2～8を選択した小学校及び無回答小学校
 中学校・導入済 【1】で1を選択した中学校
 中学校・未導入 【1】で2～8を選択した中学校及び無回答中学校

【3】あなたの学校では、「総合的な学習の時間」にどのような名称を付けていますか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 「総合」
2. 「総合学習」
3. 「総合的な学習の時間」
4. その他 ()
5. 検討中であり、まだ決まっていない。

○学校段階別集計

	小学校	中学校	高校	その他
1. 「総合」	5.0	4.4	0.0	5.3
2. 「総合学習」	6.3	9.7	6.1	21.1
3. 「総合的な学習の時間」	13.8	11.5	15.2	5.3
4. その他	38.8	35.4	9.8	15.8
5. 検討中	35.0	37.2	67.7	47.4
無回答	1.3	1.8	1.2	5.3

全体 N=376
 小学校 N= 80
 中学校 N=113
 高校 N=164
 その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 「総合」	6.2	3.4	0.0	0.0
2. 「総合学習」	19.8	6.8	2.3	1.6
3. 「総合的な学習の時間」	11.1	14.4	15.9	11.5
4. その他	50.6	29.5	5.7	1.6
5. 検討中	11.1	44.5	73.9	83.6
無回答	1.2	1.4	2.3	1.6

全体 N=376
 導入済 N= 81
 H12より N=146
 H13以降 N= 88
 検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 「総合」	5.6	4.5	5.7	3.8
2. 「総合学習」	13.9	0.0	20.0	5.1
3. 「総合的な学習の時間」	19.4	9.1	5.7	14.1
4. その他	47.2	31.8	57.1	25.6
5. 検討中	11.1	54.5	11.4	48.7
無回答	2.8	0.0	0.0	2.6

小学校導入済 N= 36
 小学校未導入 N= 44
 中学校導入済 N= 35
 中学校未導入 N= 78

○自由記述

小学校

- ・ふるさと発見タイム
- ・山の子タイム
- ・笹の葉タイム
- ・スマイルタイム
- ・かみと学習
- ・大類タイム
- ・あすみ学習
- ・あやめわくわくタイム
- ・ひばりタイム
- ・アタックタイム
- ・ふるさと学習
- ・わくわくタイム
- ・石山タイム
- ・宮の子タイム
- ・わくわく南っ子
- ・飯原っ子タイム
- ・えごまタイム
- ・なでしこ活動
- ・くすの木タイム
- ・しおさいの時間
- ・はばたき学習
- ・こまくさタイム
- ・総合学習「わかくさ」
- ・総合

- ・こくら
- ・学年によって名称がちがう。例6年「宝島タイム」
- ・うれしの総合活動
- ・桐の子タイム
- ・ひびきタイム, ジンブンタイム

中学校

- ・ふれあい学習
- ・ジャーナイカ学習
- ・樹のいのち
- ・桜タイム
- ・白川に学ぶ
- ・日の縦タイム
- ・兼六タイム
- ・飛梅タイム (とびうめたいむ)
- ・演劇活動の時間
- ・総合的学習
- ・ふるさと長野・学習
- ・柏木タイム
- ・総合タイム
- ・文化祭 (総合文化祭)
- ・My Journey Time ——自分探しの旅——
- ・自己開拓科
- ・あ, ま, が, セタイム
- ・NST (西中生徒タイム)
- ・あかえタイム
- ・赤江東タイム
- ・伊地当原学習
- ・S T A G E
- ・ネットワークプロジェクト
- ・Webbing学習
- ・学び方 (基礎コース・課題研究コース)
- ・めぶき, わかば, みどり, みのり
- ・MET
- ・生き方学習
- ・L I F E
- ・総合単元学習
- ・総合DOVE
- ・グローバルセミナー
- ・ヒューマンタイム
- ・ライフタイム
- ・JOIN
- ・総合の時間 (仮称)
- ・生き方学習, W. T, 卒業研究
- ・総合人間科
- ・レキオタイム

- ・Wing(ウイング但しH12年度よりこの名前でH年度は「ミニ総合」)

高校

- ・2, 3の間で教員間の意見がきまっていない
- ・課題研究
- ・キャリアガイダンス, 金沢学
- ・明和コンパスプラン
- ・集中セミナー
- ・IS21(Integrated Study for 21st century)
- ・鳥城シアター
- ・城南ドリカムタイム
- ・環境研究
- ・探求講座
- ・S・E
- ・養秀タイム
- ・国際・文化科
- ・総合人間科

その他

- ・生き生きタイム, エイブルタイム
- ・選択学習 <チャレンジ学習>
- ・小学部: わかばの時間, 中学部: わかぎの時間, 高等部: みのりの時間

【4】あなたの学校では、今年度（平成11年度）に「総合的な学習の時間」に関する校内での研修（研究）会を開催しましたか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 開催した → (今年度何回)
2. 開催していない

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 開催した	69.4	98.8	95.6	38.4	57.9	全体 N=376
2. 開催していない	29.5	1.3	3.5	60.4	36.8	小学校 N= 80
無回答	1.1	0.0	0.9	1.2	5.3	中学校 N=113
						高校 N=164
						その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 開催した	91.4	93.8	37.5	27.9	導入済 N= 81
2. 開催していない	8.6	5.5	60.2	70.5	H12より N=146
無回答	0.0	0.7	2.3	1.6	H13以降 N= 88
					検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 開催した	97.2	100	94.3	96.2	小学校導入済 N= 36 小学校未導入 N= 44
2. 開催していない	2.8	0.0	5.7	2.6	中学校導入済 N= 35 中学校未導入 N= 78
無回答	0.0	0.0	0.0	1.3	

【5】【4】で「1. 開催した」と答えた方にお聞きします。今年度（平成11年度）の校内での研修（研究）会はどのような形態で開催されましたか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 校内の教職員のみで開催した。
2. 校外から講師などを招いて開催した。

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 校内の教職員のみ	61.7	41.8	65.7	76.2	72.7	全体 N=261 小学校 N= 79
2. 外部から講師招請	36.0	54.4	31.5	23.8	27.3	中学校 N=108
無回答	2.3	3.8	2.8	0.0	0.0	高校 N= 63 その他 N= 11

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 校内の教職員のみ	40.5	67.9	81.8	64.7	導入済 N= 74 H12より N=137
2. 外部から講師招請	56.8	29.2	18.2	35.3	H13以降 N= 33
無回答	2.7	2.9	0.0	0.0	検討中等 N= 17

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 校内の教職員のみ	25.7	54.5	57.6	69.3	小学校導入済 N= 31 小学校未導入 N= 44
2. 外部から講師招請	68.6	43.2	42.4	26.7	中学校導入済 N= 33 中学校未導入 N= 75
無回答	5.7	2.3	0.0	4.0	

【6】あなたの学校では、今年度（平成11年度）に「総合的な学習の時間」に関する校外での研修（研究）会等へ教職員を派遣しましたか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 派遣した。
2. 派遣していない。

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 派遣した	69.1	88.8	90.3	48.8	36.8	全体 N=376 小学校 N= 80
2. 派遣していない	29.8	11.3	8.8	50.0	57.9	中学校 N=113
無回答	1.1	0.0	0.9	1.2	5.3	高校 N=164 その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 派遣した	87.7	79.5	55.7	39.3	導入済 N= 81 H12より N=146
2. 派遣していない	12.3	19.9	42.0	59.0	H13以降 N= 88
無回答	0.0	0.7	2.3	1.6	検討中等 N= 61

学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 派遣した	91.7	86.4	100	85.9	小学校導入済 N= 36 小学校未導入 N= 44
2. 派遣していない	8.3	13.6	0.0	12.8	中学校導入済 N= 35
無回答	0.0	0.0	0.0	1.3	中学校未導入 N= 78

【7】あなたの学校では、「総合的な学習の時間」の導入に当たり、先進校の実践事例等について、今年度（平成11年度）に調査・検討しましたか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. はい
2. いいえ

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. はい	56.1	77.5	73.5	38.4	15.8	全体 N=376 小学校 N= 80
2. いいえ	40.7	20.0	25.7	56.7	78.9	中学校 N=113
無回答	3.2	2.5	0.9	4.9	5.3	高校 N=164 その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. はい	65.4	71.9	43.2	24.6	導入済 N= 81 H12より N=146
2. いいえ	33.3	26.0	52.3	68.9	H13以降 N= 88
無回答	1.2	2.1	4.5	6.6	検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. はい	86.1	70.5	60.0	79.5	小学校導入済 N= 36 小学校未導入 N= 44
2. いいえ	13.9	25.0	40.0	19.2	中学校導入済 N= 35
無回答	0.0	4.5	0.0	1.3	中学校未導入 N= 78

【8】【7】で「1. はい」と答えた方にお聞きします。あなたの学校で特に参考となった実践事例がありましたら、学校名などをあげてください。

(例：○○立○○学校の……の実践)
()

○自由記述

小学校

- 10校 筑波大学附属小学校
千葉県立打瀬小学校
- 8校 京都府立御所南小学校
- 7校 上越教育大学附属小学校
- 6校 上越市立大手町小学校
- 4校 東京学芸大学附属大泉小学校
奈良女子大学附属小学校
- 3校 お茶の水女子大学附属小学校
千葉大学附属小学校
新潟大学附属新潟小学校
大阪教育大学附属平野小学校
伊那市立伊那小学校
- 2校 金沢大学部附属小学校
大阪教育大学附属天王寺小学校
兵庫教育大学附属小学校
神戸大学附属明石小学校
山形市立第四小学校
横浜市立日枝小学校
名古屋市立西尾小学校
京都市立高倉小学校
- 1校 北海道教育大附属釧路小学校
秋田大学附属小学校
山形大学附属小学校
福島大学附属小学校
群馬大学附属小学校
茨城大学附属小学校
横浜国立大学附属小学校
横浜国立大学附属鎌倉小学校
広島大学附属小学校
山口大学附属山口小学校
香川大学附属高松小学校
鳴門教育大学附属小学校
福岡教育大学附属小学校
長崎大学附属小学校
大分大学附属小学校
琉球大学附属小学校

青森県浪岡町立浪岡北小学校
仙台市立東二番町小学校
福島市立福島第三小学校
郡山市立金透小学校
藤枝市立高洲南小学校
東京都青柳小学校
東京都長谷戸小学校
東京都北区立北園小学校
東京都太田区立池上小学校
江戸川区立清新第三小学校
東京都根岸小学校
千葉市立柏台小学校
千葉市立上の台小学校
千葉市立花園小学校
横浜市立大岡小学校
甲府市立朝日小学校
新潟市立村松東小学校
富山市立堀川小学校
福井市立社西小学校
綾南町立陶小学校
箕面市立萱野小学校
鳥取市立岩倉小学校
和光学園和光鶴川小学校
名古屋市立弥富小学校
香川県牟礼町立牟礼南小学校
北九州市立祝町小学校
福岡市立飯倉小学校
大分市立金池小学校
大分市立明野北小学校
鹿児島市立田上小学校
鹿児島市立山下小学校
那覇市立若狭小学校
那覇市立前島小学校
東浦町立緒川小学校
有松小学校

中学校

- 15校 滋賀大学附属中学校
- 11校 埼玉県杉戸町立杉戸中学校
- 4校 宮城教育大学附属中学校
岐阜大学附属中学校
名古屋大学教育学部附属中学校
福岡教育大学附属福岡中学校

- 3校 鳴門教育大学附属中学校
熊本大学附属中学校
香川大学附属坂出中学校
岐阜市立加納中学校
加須市立加須平成中学校
- 2校 宇都宮大学附属中学校
お茶の水女子大学附属中学校
京都教育大学附属中学校
奈良女子大学附属中・高校
大阪教育大附属平野中学校
神戸大学附属住吉中学校
愛媛大学附属中学校
福岡教育大学附属福岡中学校
宮崎大学附属中学校
東京都墨田区立墨田中学校
兵庫県のトライやるウィーク
- 1校 弘前大学附属中学校
山形大学附属中学校
東京大学附属中学校
千葉大学附属中学校
信州大学附属長野中学校
上越教育大学附属中学校
金沢大学附属中学校
大阪教育大学附属中学校
和歌山大学附属中学校
神戸大学附属幼稚園・明石小・中学校
佐賀大学附属中学校
香川大学教育学部附属高松中学校
北広島市立広葉中学校
館山市立館山第2中学校
盛岡市立松園中学校
花巻市立湯本中学校
埼玉県加須市立加須平成中学校
東京都墨田区立墨田中学校
東京都中央区立銀座中学校
立川市立市川台1中学校
立川市立第一中学校
千葉市立椿森中学校
鎌ヶ谷市立第四中学校
相模原市立大沢中学校
相模原市立矢口中学校
慶應義塾大学湘南藤沢中・高等部
山梨県都留第一中学校
上越市立大手町小学校

富山県魚津市立魚津西部中学校
富山県福野中学校
愛知県東浦町立渚川小学校
愛知県立安城市立安城西中学校
東海市立上野中学校
岐阜市立東長良中学校
岐阜県東長良中学校
京都市立藤森中学校
大阪信愛女学院
岡山市立足守中学校
福山市立鷹取中学校
広島県福富中学校
山口県田布施町立田布施中学校
香川県寒川町立天王が丘中学校
坂井町立坂井中学校
島根県佐田町立佐田中学校
島根県松江市立本庄小学校
福岡市立春吉中学校
佐賀市立城西中学校
那覇市立松島中学校
徳地町立掘中学校
千代田町立千代田中学校
甲西町立日枝中学校
松原市立松原第三中学校
神戸市トライやるウィーク

高校

- 8校 名古屋大学附属高校
- 6校 広島大学附属中・高校
奈良県立高田高校
- 4校 東京大学附属高校
奈良女子大学附属高校
- 3校 金沢大学附属高校
筑波大学附属坂戸高校
福岡県立久留米高校
- 2校 宮城県宮城野高校
石川県立金沢北陵高校
福岡県立朝倉高校
熊本県立鹿本高校
- 1校 熊本大学附属中学校
北海道立札幌東高等学校

青森県立七戸高校
岩手県立釜石南高校
栃木県立氏家高校
栃木県真岡北高校
埼玉県立春日部東高校
東京都立晴海総合高校
千葉県立小金高校
長野県北部高校
山梨県立都留高校
静岡県立湖南高校
岐阜県立恵那高校
滋賀県立甲西高校
大阪府立天王寺高校
兵庫県立神戸高塚高校
岡山県立古城池高校
徳島県立富岡西高校
福岡県立城南高校
福岡県立明善高校
長崎県立長崎東高校
熊本県立熊本高校
大東学園高校

その他

1校 筑波大学附属駒場中学校

※学校数は、対象学校を参考としたとあげた学校数。学校名は調査票に記入されたままを記している。

【9】【7】で「1. はい」と答えた方にお聞きします。あなたの学校で特に参考となった資料、著書がありましたら、資料名・書名をあげてください。

()

○自由記述

小学校

- ・『総合的な学習 実践研究 情報 なんでも辞典』
- ・『総合的な学習を創る』明治図書
- ・『教室ツーウェイ』
- ・『初等教育資料』
- ・『総合教育技術』
- ・『各学年教育技術』
- ・「<総合的な学習>先進校 f が取り組んでいる200単元を分析する」(総合教育技術3月号)
- ・『総合的な学習』第一法規
- ・現代教育科学 九月号 p. ～中留武昭著)
- ・教職研修中留武昭)

- ・中野重人・広嶋憲一郎編『自ら学ぶ「総合的な学習の時間」のつくり方ーだれにでもできる実践ガイド』東洋館出版社
 - ・小島宏・北村文夫・寺崎千秋・梶井貢編『総合的な学習の創造』教育出版
 - ・高浦勝義『小学校総合的な学習の展開例』大日本図書
 - ・高浦勝義『総合学習の理論・実践・評価』黎明書房
 - ・高浦勝義編『総合学習の理論』黎明書房
 - ・山極隆，無藤隆編『新しい教育課程と21世紀の学校』
 - ・児島邦宏・羽豆成二編『小学校「総合的な学習の時間」研究の手引き』明治図書
 - ・奈須正裕『総合学習を指導できる“教師の力量”』明治図書
 - ・奈須正裕『学ぶ意欲を育てる』金子書房
 - ・奈須正裕『学ぶ意欲を育てる』
 - ・児島邦宏『学校文化を拓く先生』
 - ・児島邦宏『教育の流れを変える総合的な学習ーどう考え，どう取り組むか』ぎょうせい，
 - ・加藤幸次・佐野亮子編『小学校の総合学習の考え方・進め方』黎明書房
 - ・加藤幸次『総合学習の思想と技術』明治図書
 - ・加藤幸次『総合学習の実践』黎明書房
 - ・加藤幸次『多様化へ対応する授業』
 - ・加藤幸次『総合学習の理論』
 - ・水越敏行『総合的な学習の理論と展開』明治図書
 - ・平野朝久『子どもの「学ぶ力」が育つ総合学習』
 - ・無藤隆『総合的な学習の教育課程上の位置づけと基本理念』
 - ・波多野誼余夫『知的好奇心』
-
- ・新潟県上越市立大手町小学校『総合的な学習における学習の成立と評価』
 - ・新潟県上越市立大手町小学校『新しい教育課程ににじ色の夢』
 - ・天笠茂・秋田大学教育文化学部附属小学校編『総合的な学習への挑戦ー豊かな子ども文化をひらく』教育出版
 - ・東京学芸大学附属大泉小学校『総合学習 新しい知と学びの創造』
 - ・東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校『個のよさが生きる総合学習の展開』東洋館出版社
 - ・奈良女子大学附属小学校研究会編『「総合的な学習」の提案ー奈良の学習法 総合的な学習づくりのすべてがわかる』明治図書
 - ・日本教育新聞『総合的な学習の時間Q&A』
-
- ・『感動ある授業と「生きる力」』
 - ・『北国の子供からの発信 総合自由学習』
 - ・『システムファイル98』
 - ・『地域・学校の特色に応じた総合学習』
 - ・『学びの支援の上手な先生』
 - ・『総合的な学びの力をつける授業づくり』
 - ・『「総合的な学習」かがやき』
 - ・特色ある教育推進の時間割編成の工夫
 - ・新学習指導要領「移行措置」早わかりの冊子
 - ・NHK教育TVでの特集
-
- ・『新しいパラダムによる授業の創造』
 - ・『個の成長』

- ・『総合的な学習の指導体制をつくる』教育開発研究所
- ・『子どもの「学ぶ力」が育つ総合学習』
- ・『生きる力を育む総合学習の展開』
- ・『総合的な学習の時間のゆくえ』
- ・『個を生かす教育の実践』
- ・『総合学習のための、ポートフォリオ評価』
- ・文部省『特色ある教育活動の展開のための実践事例集「総合的な学習の時間」の学習活動の展開―(小学校編)』教育出版
- ・千葉県教育委員会『総合的な学習の時間教育実践資料集』
- ・千葉県教育委員会『総合的な学習の時間考え方進め方』
- ・『総合的な学習の時間、小学校における検討課題と方策』(県教育センター)
- ・木更津市立金田小学校 校内研修研究計画
- ・御所南の研究紀要
- ・筑波大学附属小学校研究紀要
- ・奈良女子大学附属小学校研究紀要
- ・横浜国立大学附属小学校研究紀要
- ・上越教育大学附属小学校研究紀要
- ・打瀬小カリキュラム
- ・「内から育つ」伊那小学校 平成10年度研究紀要
- ・上越教育大学附属小学校のカリキュラム
- ・筑波大学附属小学校小テーマ集
- ・筑波大学附属小学校研究紀要
- ・千葉大学附属小研究紀要
- ・神戸教育大事例集
- ・筑波大学附属小学校 研究紀要 第55集
- ・大分市校長会の作成した資料

中学校

- ・『中学校における総合的な学習の時間の実践』ゆまに書房
- ・『中学校の総合的な学習』小学館
- ・『総合的な学習の実践』教育開発研究所
- ・『「学び方」の習得を目指すカリキュラム開発』
- ・柴田義松『学び方の基礎・基本と総合学習』明治図書
- ・有田和正『子どもとつくる総合学習』明治図書
- ・竹川訓由・菅原光敏『「エネルギー教育」の授業プラン』明治図書
- ・愛知県東浦町立緒川小学校『個性化教育 生きる力を育てる横断的・総合的学習』黎明書房
- ・中野重人『総合的な学習の時間』
- ・児島邦宏・飯塚峻・村川雅弘編『総合的な学習・指導案集中学校―単元づくりのガイドと実際例』図書文化社
- ・児島邦宏・佐野金吾編『中学校「総合的な学習の時間」研究の手引き』明治図書
- ・加藤幸次・成田幸夫編『中学校の総合学習の考え方・進め方』黎明書房
- ・加藤幸次『総合学習の実践』黎明書房
- ・『新学習指導要領移行措置の解説』時事通信社
- ・『「総合的な学習」実践事例集』ぎょうせい

- ・「総合的な学習」実践研究会編『総合的な学習の実践事例と解説』第一法規
- ・児島邦宏『教育の流れを変える総合的な学習ーどう考え、どう取り組むか』ぎょうせい
- ・有園格・小島宏『中学校の総合的な学習』ぎょうせい
- ・『総合的な学習の展開と技術』教育開発研究所
- ・『生きる力 100の課題徹底理解』教育開発研究所
- ・『総合的な学習』東京書籍
- ・山極隆 『総合的な学習』明治図書
- ・『〈生きる力〉を育てる』金子書房
- ・『総合的な学習の実践』金子書房

- ・『総合的な学習を創る』 明治図書
- ・『教育ジャーナル』学研
- ・『教育技術ムック 中学校の総合的な学習』
- ・『認定版 移行期の総合的な学習』中学教育2月増刊

- ・中学校学習指導要領総則編
- ・平成11年度山梨県総合教育センター研究集録
- ・文部省指定（～）進路指導研究実践発表資料
- ・総合的な学習を考える会分科会8 実践発表資料

- ・弘前大学教育学部附属中学校研究紀要
- ・加須平成中自主創造活動支援案
- ・埼玉県杉戸中資料
- ・山梨県都留第一中資料
- ・富山県福野中資料
- ・花巻市立湯本中資料
- ・加納中学校研究紀要 「総合学習」
- ・岐阜大学附属中学校研究紀要「研究報告」
- ・東京立川市立市川台1中研究冊子
- ・千葉市立椿森中研究冊子
- ・大阪信愛女学院研究冊子
- ・神戸大学発達科学部附属幼稚園・明石小中学校研究会資料
- ・杉戸中学校の研究のまとめ

高校

- ・佐藤真『「総合的な学習」の実践と新しい評価法』学事出版
- ・全国高等学校進路指導協議会編『進路学習ベーシック・マニュアル』実務教育出版
- ・「月刊高校教育」編集部編『高等学校「総合的な学習の時間」実践の手引』学事出版
- ・安彦忠彦・名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校『中・高「総合的な学習」のカリキュラム開発ー新教科「総合人間科」の実践』明治図書
- ・児島邦宏『教育の流れを変える総合的な学習ーどう考え、どう取り組むか』ぎょうせい
- ・『高校新世紀カリキュラムと大学入試の研究』旺文社
- ・「総合的な学習」実践研究会編『総合的な学習の実践事例と解説』第一法規
- ・『総合学習・選択学習の展開』学事出版
- ・『高等学校における「総合的な学習の時間」の課題と展望』ベネッセ・コーポレーション

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 教材・教具の整備	6.4	1.3	8.8	6.7	10.5
2. 教育環境・施設の整備	15.4	8.8	10.6	23.2	10.5
3. 地域人材・地域教材	37.0	71.3	44.2	17.7	15.8
4. 情報通信ネットワークの整備	14.4	8.8	13.3	15.2	31.6
5. 図書室の整備・充実	4.0	1.3	3.5	6.1	0.0
6. その他	18.6	8.8	17.7	23.2	26.3
無回答	4.3	0.0	1.8	7.9	5.3

全体 N=376
 小学校 N= 80
 中学校 N=113
 高校 N=164
 その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 教材・教具の整備	3.7	8.2	6.8	4.9
2. 教育環境・施設の整備	9.9	11.6	20.5	24.6
3. 地域人材・地域教材	42.0	54.1	18.2	16.4
4. 情報通信ネットワークの整備	22.2	8.2	14.8	18.0
5. 図書室の整備・充実	1.2	4.1	6.8	3.3
6. その他	21.0	11.6	21.6	27.9
無回答	0.0	2.1	11.4	4.9

導入済 N= 81
 H12より N=146
 H13以降 N= 88
 検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 教材・教具の整備	2.8	0.0	5.7	10.3
2. 教育環境・施設の整備	8.3	9.1	8.6	11.5
3. 地域人材・地域教材	61.1	79.5	25.7	52.6
4. 情報通信ネットワークの整備	13.9	4.5	28.6	6.4
5. 図書室の整備・充実	0.0	2.3	0.0	5.1
6. その他	13.9	4.5	31.4	11.5
無回答	0.0	0.0	0.0	2.6

小学校導入済 N= 36
 小学校未導入 N= 44
 中学校導入済 N= 35
 中学校未導入 N= 78

○自由記述

小学校

- ・教育課程の作成。
- ・生物とのふれあい。
- ・子どもの自己実現が可能な活動計画・内容の検討。
- ・学習内容。
- ・総合的な学習における学びの内実。
- ・総合の類型化と教育課程の創造。
- ・カリキュラム開発，整備，単元開発。

中学校

- ・「総合的な学習の時間」の教育課程の編成並びにカリキュラムづくり。
- ・教員の意識改革。
- ・1年生分の年計の作成。

- ・育成を目指す能力・態度の分析とそれに即した学習内容・活動や教材開発。
- ・内容と教育課程の位置づけ。
- ・行事の内容。
- ・カリキュラム作成（※1つは答えにくいです）。
- ・検討中。
- ・一つ選ぶことができない。
- ・必修、選択との関連・評価方法の在り方。
- ・教育課程との関係。
- ・全体計画の作成。
- ・カリキュラム評価。
- ・内容。
- ・年間指導計画の作成と実践。
- ・内容をどう具体化するのかの話し合いを現在行っており、それが最も重視している。
- ・教員の指導体制。
- ・3年間を見通した指導計画の吟味。
- ・評価。

高校

- ・新たな整備を要しない対策。
- ・小論文指導のための方策。
- ・研究中。
- ・様々な整備は必要であるが、現段階では現状でできる範囲で実施する方針である。
- ・未検討。
- ・指導内容・指導形態・カリキュラム上の位置づけの検討。
- ・まだ、取り組んでいない。
- ・新教育課程への位置づけ。
- ・大学・企業との連携。
- ・講演会等依頼先の研究。
- ・検討中。
- ・テーマ設定、指導内容・体制の整備。
- ・総合的な学習の時間のとらえ方。
- ・国際理解教育。
- ・コース制を導入しているので、それとどう区別するか検討中。
- ・検討中である。
- ・今後検討。
- ・全教職員の共通認識・理解をどう得るか。
- ・検討中。
- ・今後に検討。
- ・生徒の取り組む姿勢・意欲。
- ・現在検討中である。
- ・積極的にはない。
- ・教育課程・内容と方法（時間割編成上の実施時期等）。
- ・未定。
- ・HP利用による先進校の取り組み情報収集。
- ・本校がかかえている問題点の整理。
- ・現存の指導形態の発展・応用（特に小論文指導）。

- ・職員の意識向上，連携。
- ・検討中。
- ・検討中。
- ・教職員の指導体制作り。
- ・検討中。

その他

- ・内容。
- ・領域教科を合わせた指導との関わり。
- ・領域・教科を合わせた指導との立場の違いを明確にすること。
- ・進路。
- ・教育内容の見直し。

II. カリキュラム

【11】平成11年度にすでに「総合的な学習の時間」を導入した学校にお聞きします。平成11年度のすべての学年での学習活動について、下記の表に記入してください。また、それらの児童生徒の学習課題はどのような方法で設定しましたか。表中の課題設定欄には、以下のA～Eまでのいずれか一つを選び、その記号を記入して下さい。

(平成11年度に導入していない学校は、次の問いにお進みください。)

学年	実施時期	合計時間	テーマ（単元名）	課題設定
	月～ 月			
	月～ 月			
	月～ 月			

課題設定の方法例

- 児童生徒が興味関心に基づいて自ら学習課題を設定した。
- 大きなテーマや領域は教師が決めるが、具体的な学習課題は児童生徒に決めさせた。
- 教師が準備した学習課題例の中から児童生徒が選択できるようにした。
- 教師が設定した学習課題を児童生徒が学習した。
- その他

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 児童生徒が興味関心に基づいて設定	23.0	21.3	31.4	0.0	3.1	全体 N=376
2. テーマ等は教師が、学習課題は児童生徒が設定	55.4	62.5	49.7	68.7	18.8	小学校 N= 80
3. 教師が準備した学習課題から児童生徒が選択	5.8	4.3	2.3	6.3	37.5	中学校 N=113
4. 教師が設定	11.4	4.3	16.0	25.0	40.6	高校 N=164
5. その他	4.4	7.6	0.6	0.0	0.0	その他 N= 19

以下の設問は、平成12年度の指導計画を作成している学校にお聞きします。まだ作成していない学校は、「Ⅲ. 指導体制と評価」に進んでください。

【12】あなたの学校では、時間割編成上「総合的な学習の時間」をどのように位置づける予定ですか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 年間を通じて、毎週一定の時間を設定する。
2. 毎週一定の時間を設定する学期と、まとめて時間を設定する学期をつくる。
3. 各学期毎にまとめて時間を設定する。
4. その他 ()

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 年間を通じて、毎週一定時間を設定	44.1	37.5	41.9	62.9	60.0	全体 N=222 小学校 N= 72
2. 併用	21.2	22.2	24.8	11.4	10.0	中学校 N=105
3. 各学期にまとめて時間を設定	20.3	23.6	20.0	11.4	20.0	高校 N= 35
4. その他	14.4	16.7	13.3	14.3	10.0	その他 N= 10

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 年間を通じて、毎週一定時間を設定	48.1	42.3	50.0	20.0	導入済 N= 79
2. 併用	19.0	21.5	25.0	40.0	H12より N=130
3. 各学期にまとめて時間を設定	15.2	23.8	12.5	20.0	H13以降 N= 8
4. その他	17.7	12.3	12.5	20.0	検討中等 N= 5

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 年間を通じて、毎週一定時間を設定	40.0	35.1	45.7	40.0	小学校導入済 N= 35
2. 併用	20.0	24.3	20.0	27.1	小学校未導入 N= 37
3. 各学期にまとめて時間を設定	20.0	27.0	14.3	22.9	中学校導入済 N= 35
4. その他	20.0	13.5	20.0	10.0	中学校未導入 N= 70

○自由記述

小学校

- ・年間35時間のため日課表には週1時間設定している。ただし内容によってはある時期に集中する場合もある。
- ・重点期間を年間にちりばめる。
- ・従来の固定時間割の中に位置づけず、ある時期に集中したりする。
- ・各学年のテーマに応じて時間設定する。(総時間数は全校統一)
- ・まとめて時間を設定する。一定期間。
- ・年間を通じて毎週一定の時間を設定するのと、学期にまとめて時間を設定する。
- ・学年の取り組みに応じて決める。
- ・週1時間と設定するが活動内容に応じてまとめて設定することもある。
- ・時間的には位置付けるが振り替えて行う。

- ・ 1 と 3 の併用。
- ・ 毎週一定の時間を設定するが、まとめどりも可能。
- ・ 一定の時間を設定する時期とまとめて設定する時期をつくる。

中学校

- ・ 学期の中の一時期、週一定の時間を設定。
- ・ 特定の学期にまとめて時間を設定する。
- ・ 2 週に 1 回。
- ・ 年間 10 時間。
- ・ まとめて設定したり、各教科の時間でしたりする予定。
- ・ 学校裁量の時間を使う。特に時間は設定しない。
- ・ 各週ごとに時間を設定する学期と、まとめて時間を設定する学期をつくる。
- ・ 特設。
- ・ 年間を通じてまとめて設定&毎週に一定の時間を設定する期間をおく。
- ・ 集中期間方式。
- ・ 週毎に時間割を編成しているので、学年毎の計画で期間や時間を設定している。
- ・ 時間割基本型の中に位置付けている。
- ・ 毎週一定の時間を設定する時期と集中的に設定する時期を作る。
- ・ 6～12月に毎週定期設定。他の月はなし。

高校

- ・ 受入れ先や講師の都合に合わせて実施。
- ・ 1年生のみ。10月以降月1回程度。
- ・ まだわからない。
- ・ 適宜実施。
- ・ 毎月一定の時間と年間を通じて設定。

その他

- ・ 弾力的に運用。

【13】あなたの学校の「総合的な学習の時間」として、特に重視したいテーマを以下の中から該当するものを三つ以内まで選んでください。

- | | | | | |
|-----------|----------|-------|--------|-------|
| 1. 国際理解 | 2. 情報 | 3. 環境 | 4. 福祉 | 5. 健康 |
| 6. 地域（郷土） | 7. 伝統文化 | 8. 人権 | 9. 生き方 | |
| 10. 進路 | 11. その他（ | | | ） |

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 国際理解	29.7	30.6	28.6	37.1	20.0
2. 情報	15.3	20.8	10.5	20.0	10.0
3. 環境	39.6	48.6	35.2	40.0	30.0
4. 福祉	25.2	30.6	24.8	20.0	10.0
5. 健康	5.4	5.6	4.8	5.7	10.0
6. 地域（郷土）	42.3	61.1	42.9	11.4	20.0
7. 伝統文化	5.0	4.2	6.7	0.0	10.0
8. 人権	6.8	4.2	9.5	5.7	0.0
9. 生き方	27.0	20.8	32.4	25.7	20.0
10. 進路	17.1	0.0	18.1	45.7	30.0
11. その他	12.6	11.1	14.3	5.7	20.0

全体 N=222

小学校 N= 72

中学校 N=105

高校 N= 35

その他 N= 10

※ ここでは「該当するものを三つ以内まで」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢1～11のパーセンテージの合計は100%にはならない。「1. 国際理解」を例とすると、「全体」では222校中の29.7%が、「1. 国際理解」を特に重視したいテーマと考えていることを示している。

「導入段階別集計」、「学校段階・導入段階クロス集計」でも同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 国際理解	31.6	27.7	25.0	60.0
2. 情報	20.3	10.8	25.0	40.0
3. 環境	39.2	37.7	62.5	60.0
4. 福祉	19.0	28.5	25.0	40.0
5. 健康	5.1	5.4	12.5	0.0
6. 地域（郷土）	40.5	46.2	25.0	0.0
7. 伝統文化	5.1	5.4	0.0	0.0
8. 人権	3.8	7.7	0.0	40.0
9. 生き方	31.6	26.9	0.0	0.0
10. 進路	5.1	21.5	50.0	40.0
11. その他	21.5	8.5	0.0	0.0

導入済 N= 79

H12より N=130

H13以降 N= 8

検討中等 N= 5

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 国際理解	25.7	35.1	34.3	25.7
2. 情報	20.0	21.6	17.1	7.1
3. 環境	45.7	51.4	37.1	34.3
4. 福祉	20.0	40.5	22.9	25.7
5. 健康	5.7	5.4	2.9	5.7
6. 地域（郷土）	54.3	67.6	34.3	47.1
7. 伝統文化	5.7	2.7	5.7	7.1
8. 人権	0.0	8.1	8.6	10.0
9. 生き方	28.3	13.5	40.0	28.6
10. 進路	0.0	0.0	8.6	22.9
11. その他	20.0	2.7	20.0	11.4

小学校導入済 N= 35

小学校未導入 N= 37

中学校導入済 N= 35

中学校未導入 N= 70

○自由記述

小学校

- ・特になし。
- ・12年度に学年で決める。
- ・理論研究。
- ・人権，環境，生命尊重，仲間の4つの意識。
- ・特に重点は置かない。

中学校

- ・安全について。
- ・生徒が関心があれば，どれでもよい。
- ・演劇活動。
- ・話し合い，行事の持ち方。
- ・検討中。
- ・内容としてはしぼっていない。
- ・地球市民的素質と人間関係能力。
- ・生徒の興味・関心，疑問に基づくテーマ。
- ・1～9の項目すべて重視したいと考えています→共生。
- ・話し合いによる問題解決。
- ・3つにおさまらない。

高校

- ・すべての教科にわたり課題を設定。
- ・未定。

その他

- ・小中高等部の各学部に応じて設定する。
- ・自然体験，ものづくり。

【14】各学年におけるテーマをどのように配置する予定ですか。以下の中から該当するものを一つ選ん

でください。

1. 各学年とも異なるテーマを扱う。
2. 複数の学年で同じテーマを扱う。
3. その他 ()

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 各学年とも異なるテーマ	50.2	49.3	55.2	45.5	20.0	全体 N=222 小学校 N= 72
2. 複数の学年で同じテーマ	27.4	23.9	27.6	27.3	40.0	中学校 N=105 高校 N= 35
3. その他	22.4	26.8	17.1	27.3	40.0	その他 N= 10

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 各学年とも異なるテーマ	48.1	50.4	75.0	40.0	導入済 N= 79 H12より N=130
2. 複数の学年で同じテーマ	26.0	29.5	25.0	0.0	H13以降 N= 8
3. その他	26.0	20.2	0.0	60.0	検討中等 N= 5

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 各学年とも異なるテーマ	47.1	51.4	55.9	54.9	小学校導入済 N= 35 小学校未導入 N= 37
2. 複数の学年で同じテーマ	23.5	24.3	23.5	29.6	中学校導入済 N= 35 中学校未導入 N= 70
3. その他	29.4	24.3	20.6	15.5	

○自由記述

小学校

- ・共通テーマ 秋保となかよし～人・自然・地域とのふれ合いを通して～単学級の小規模校なので全学年共通テーマとした。
- ・すべて学年にまかせている。
- ・基本的には個がテーマを見つけるようにする。
- ・全校統一テーマと学年毎テーマ。
- ・学年ごとのテーマと学校のテーマを両方扱う。
- ・「環境教育」を学校全体テーマとしそれを各学年が受けてテーマを設定する。
- ・各学年が自由にテーマを決める。
- ・地域を中心にして、各学年でテーマを決める。
- ・1, 2の両方。

- ・学年縦割りで行なう活動と隣接学年で行なう活動がある。
- ・グループ毎に設定し、活動計画の中に位置づける。
- ・各学年異なるテーマ、学年部で同じテーマ、全学年で同じテーマ。
- ・12年度に学年で決める。
- ・検討中。
- ・学校で1つのテーマと、高学年で、自由に考える。
- ・学校の研究テーマにそって進める。
- ・テーマはちがうが高めたい意識は複数学年で。

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 学年のはじめに位置づける	24.9	11.1	33.3	32.4	10.0	全体 N=222 小学校 N= 72
2. それぞれの学習課題に応じて	50.7	61.1	44.8	47.1	50.0	中学校 N=105
3. 特に設けない	13.1	19.4	7.6	8.8	40.0	高校 N= 35
4. その他	11.3	8.3	14.3	11.8	0.0	その他 N= 10

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 学年のはじめに位置づける	19.0	28.7	25.0	20.0	導入済 N= 79
2. それぞれの学習課題に応じて	49.4	52.7	37.5	40.0	H12より N=130
3. 特に設けない	13.9	12.4	12.5	20.0	H13以降 N= 8
4. その他	17.7	6.2	25.0	20.0	検討中等 N= 5

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 学年のはじめに位置づける	14.3	8.1	22.9	38.6	小学校導入済 N= 35 小学校未導入 N= 37
2. それぞれの学習課題に応じて	54.3	67.6	42.9	45.7	中学校導入済 N= 35 中学校未導入 N= 70
3. 特に設けない	17.1	21.6	8.6	7.1	
4. その他	14.3	2.7	25.7	8.6	

【16】平成12年度のすべての学年での指導計画について、下記の表に記入してください。

学年	実施時期	合計時間	テーマ（単元名）
	月～ 月		
	月～ 月		
	月～ 月		

Ⅲ. 指導体制と評価

【17】あなたの学校では、「総合的な学習の時間」を誰が担当しますか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 学級担任が指導する。
2. 一部の教科の担当教員が指導する。 → （担当者の教科名： ）
3. 学習内容により、さまざまな教師が交代で指導する。
4. その他（ ）

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 学級担任	21.5	71.3	5.3	7.9	26.3	全体 N=376
2. 一部教科の教員	0.8	1.3	0.0	0.6	5.3	小学校 N= 80
3. 学習内容により交代	38.8	11.3	52.2	41.5	52.6	中学校 N=113
4. その他	33.5	13.8	40.7	40.2	15.8	高校 N=164
無回答	5.3	2.5	1.8	9.8	0.0	その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 学級担任	30.9	32.9	5.7	4.9	導入済 N= 81
2. 一部教科の教員	2.5	0.0	0.0	1.6	H12より N=146
3. 学習内容により交代	25.9	39.0	48.9	41.0	H13以降 N= 88
4. その他	38.3	26.7	37.5	37.7	検討中等 N= 61
無回答	2.5	1.4	8.0	14.8	

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校		
	導入済	未導入	導入済	未導入	
1. 学級担任	61.1	79.5	8.6	3.8	小学校導入済 N= 36
2. 一部教科の教員	2.8	0.0	0.0	0.0	小学校未導入 N= 44
3. 学習内容により交代	11.1	11.4	37.1	59.0	中学校導入済 N= 35
4. その他	22.2	6.8	51.4	35.9	中学校未導入 N= 78
無回答	2.8	2.3	2.9	1.3	

【18】あなたの学校では「総合的な学習の時間」における児童生徒の評価を、主にどのような方法で行いますか。以下の中から該当するものを一つ選んでください。

1. 児童生徒による自己評価
2. 児童生徒による相互評価
3. 教師による評価
4. その他 ()

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 児童生徒による自己評価	20.7	38.8	33.6	4.9	5.3	全体 N=376
2. 児童生徒による相互評価	2.4	1.3	4.4	1.8	0.0	小学校 N= 80
3. 教師による評価	23.7	16.3	14.2	26.8	84.2	中学校 N=113
4. その他	46.3	41.3	45.1	53.7	10.5	高校 N=164
無回答	6.9	2.5	2.7	12.8	0.0	その他 N= 19

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 児童生徒による自己評価	37.0	27.4	6.8	3.3
2. 児童生徒による相互評価	0.0	4.1	3.4	0.0
3. 教師による評価	16.0	25.3	22.7	31.1
4. その他	43.2	39.0	56.8	52.5
無回答	3.7	4.1	10.2	13.1

導入済 N= 81
H12より N=146
H13以降 N= 88
検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 児童生徒による自己評価	41.7	36.4	42.9	29.5
2. 児童生徒による相互評価	0.0	2.3	0.0	6.4
3. 教師による評価	5.6	25.0	14.3	14.1
4. その他	52.8	31.8	37.1	48.7
無回答	0.0	4.5	5.7	1.3

小学校導入済 N= 36
小学校未導入 N= 44
中学校導入済 N= 35
中学校未導入 N= 78

○自由記述

小学校

- ・まだ未定であるが、感想文や記録等から教師が評価する。
- ・1と3を合わせて行う。
- ・「1」+「2」。
- ・まだ話し合っていない。
- ・未定。
- ・検討中。
- ・児童による自己評価と、教師による評価の両方。
- ・児童生徒による自己評価と教師による評価の両方。
- ・1から3。
- ・評価方法については検討中。
- ・検討中。
- ・研究中。

中学校

- ・未定。
- ・生徒の学習に対する評価…生徒の自己評価・相対評価、教師による評価。
※ポートフォリオ評価で
カリキュラム評価…生徒の意識調査・実態調査と保護者の意識調査、教師や指導者による評価。
- ・生徒による自己評価と教師による評価。
- ・未定。
- ・1との両面で。
- ・生徒と教師。
- ・検討課題。
- ・「生徒の自己評価」と「教師による評価」の両方で。
- ・1～3のすべて。

高校

- ・ 1 と 3 の混合したもの。
- ・ 未定。
- ・ まだわからない。
- ・ 上の 1, 2, 3 を合わせたもの。
- ・ 検討中である。
- ・ 1 と 3 の併用。

IV. 活動内容

【19】あなたの学校では、「総合的な学習の時間」においてどのような活動を重視しますか。以下の中から特に重視したいものを二つ選んでください。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 自然体験 | 2. 社会的活動（ボランティア） |
| 3. 観察・実験・実習 | 4. 見学・調査・研究的活動 |
| 5. ものづくり・生産活動 | 6. 報告書作成、発表や討論などの表現活動 |
| 7. その他（ | ） |

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他	
1. 自然体験	11.2	30.0	6.2	1.8	42.1	
2. 社会的活動	18.9	18.8	26.5	13.4	21.1	
3. 観察・実験・実習	7.2	10.0	4.4	7.3	10.5	全体 N=376
4. 見学・調査・研究的活動	58.0	56.3	72.6	51.8	31.6	小学校 N= 80
5. ものづくり・生産活動	9.0	20.0	4.4	4.3	31.6	中学校 N=113
6. 報告書作成などの表現活動	42.6	31.3	51.3	46.3	5.3	高校 N=164
7. その他	13.8	7.5	7.1	20.7	21.1	その他 N= 19

※ ここでは「特に重視したいもの二つ」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢 1～7 のパーセンテージの合計は100%にはならない。【13】と同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等	
1. 自然体験	16.0	16.4	2.3	4.9	
2. 社会的活動	19.8	23.3	13.6	14.8	
3. 観察・実験・実習	12.3	4.8	6.8	6.6	
4. 見学・調査・研究的活動	65.4	61.6	53.4	45.9	導入済 N= 81
5. ものづくり・生産活動	9.9	11.6	5.7	6.6	H12より N=146
6. 報告書作成などの表現活動	48.1	35.6	50.0	41.0	H13以降 N= 88
7. その他	11.1	8.2	20.5	21.3	検討中等 N= 61

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 世界とのつながり	43.6	71.3	41.6	30.5	52.6
2. コミュニケーション能力の向上	38.0	31.3	35.4	44.5	26.3
3. 日本の伝統や文化	31.1	46.3	31.9	25.0	15.8
4. 地域の伝統や文化	34.0	61.3	40.7	18.3	15.8
5. 海外の学校と交流	25.0	15.0	23.0	31.7	21.1
6. 地域の外国人と交流	28.7	41.3	32.7	18.3	42.1
7. 留学生などの経験を生かした	18.9	25.0	20.4	15.2	15.8
8. 国際ボランティア活動	3.7	2.5	7.1	2.4	0.0
9. 地球的課題	21.8	17.5	24.8	24.4	0.0
10. 人権・差別・偏見, 社会的正義	28.2	20.0	39.8	27.4	0.0
11. 世界の多様な生活・文化	37.8	43.8	44.2	29.9	42.1
12. その他	10.9	6.3	7.1	16.5	5.3

全体 N=376
 小学校 N= 80
 中学校 N=113
 高校 N=164
 その他 N= 19

※ ここでは「該当するものをいくつでも」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢1～12パーセンテージの合計は100%にはならない。【13】と同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 世界とのつながり	59.3	49.3	27.3	32.8
2. コミュニケーション能力の向上	40.7	29.5	53.4	32.8
3. 日本の伝統や文化	40.7	34.2	25.0	19.7
4. 地域の伝統や文化	51.9	43.2	11.4	21.3
5. 海外の学校と交流	23.5	20.5	31.8	27.9
6. 地域の外国人と交流	49.4	27.4	19.3	18.0
7. 留学生などの経験を生かした	30.9	17.1	11.4	18.0
8. 国際ボランティア活動	3.7	4.1	4.5	1.6
9. 地球的課題	24.7	18.5	27.3	18.0
10. 人権・差別・偏見, 社会的正義	29.6	29.5	28.4	23.0
11. 世界の多様な生活・文化	46.9	38.4	35.2	27.9
12. その他	9.9	6.8	17.0	13.1

導入済 N= 81
 H12より N=146
 H13以降 N= 88
 検討中等 N= 61

※ ここでは「該当するものをいくつでも」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢1～12パーセンテージの合計は100にはならない。【13】と同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 森, 山などで動植物や自然に親しむ	56.8	43.2	14.8	18.0
2. 川, 池などで動植物や自然に親しむ	48.1	37.7	4.5	9.8
3. 動植物の飼育栽培など	33.3	32.9	6.8	8.2
4. 環境美化, ボランティア活動	58.0	63.0	55.7	41.0
5. 生命の尊さや環境倫理	30.9	25.3	37.5	36.1
6. 資源・エネルギー問題	40.7	28.8	42.0	41.0
7. 地域開発やまちづくり	38.3	31.5	10.2	9.8
8. 地球的規模の環境問題	39.5	31.5	44.3	32.8
9. 国内や地域の自然環境	45.7	37.0	25.0	18.0
10. 国内や地域の気候や水の汚れ	51.9	32.2	27.3	23.0
11. 国内や地域の廃棄物, リサイクル	65.4	52.7	43.2	39.3
12. その他	11.1	4.8	17.0	16.4

導入済 N= 81
H12より N=146
H13以降 N= 88
検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 森, 山などで動植物や自然に親しむ	83.3	75.0	31.4	23.1
2. 川, 池などで動植物や自然に親しむ	75.0	68.2	20.0	26.9
3. 動植物の飼育栽培など	55.6	68.2	14.3	17.9
4. 環境美化, ボランティア活動	72.2	63.6	45.7	70.5
5. 生命の尊さや環境倫理	36.1	22.7	28.6	28.2
6. 資源・エネルギー問題	25.0	27.3	60.0	32.1
7. 地域開発やまちづくり	38.9	36.4	42.9	38.5
8. 地球的規模の環境問題	38.9	29.5	42.9	30.8
9. 国内や地域の自然環境	50.0	47.7	48.6	37.2
10. 国内や地域の気候や水の汚れ	63.9	25.0	51.4	37.2
11. 国内や地域の廃棄物, リサイクル	77.8	54.5	60.0	53.8
12. その他	0.0	6.8	17.1	5.1

小学校導入済 N= 36
小学校未導入 N= 44
中学校導入済 N= 35
中学校未導入 N= 78

V. 「総合的な学習の時間」の課題

【22】「総合的な学習の時間」の導入に当たっての問題点ないし課題は何ですか。以下の中から該当するものをいくつでも選んでください。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 他校の事例など情報の不足 | 2. 準備期間の不足 |
| 3. 指導助言者の不足 | 4. 教材・資料等の不足 |
| 5. 費用・予算の不足 | 6. 教師の意欲あるいは共通理解の不足 |
| 7. 担当者の人選や配置 | 8. 教師への負担増 |
| 9. 校外学習などでの児童生徒の安全確保 | 10. 教師ごとの指導のばらつき |
| 11. 保護者の協力と理解 | 12. 地域の人材の確保 |
| 13. 「総合的な学習の時間」の時間枠の捻出 | 14. 特になし |
| 15. その他（ | ） |

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 情報不足	33.5	12.5	21.2	49.4	57.9
2. 準備期間の不足	29.5	27.5	35.4	26.8	26.3
3. 指導助言者の不足	25.5	32.5	25.7	22.6	21.1
4. 教材・資料等の不足	34.6	33.8	46.9	28.7	15.8
5. 費用・予算の不足	51.3	66.3	62.8	39.6	21.1
6. 教師の意欲、共通理解の不足	42.6	23.8	43.4	51.2	42.1
7. 担当者の人選、配置	32.2	8.8	31.9	45.1	21.1
8. 教師への負担増	47.1	36.3	52.2	51.8	21.1
9. 児童生徒の安全確保	33.2	60.0	46.0	13.4	15.8
10. 教師ごとの指導のばらつき	19.1	21.3	23.0	16.5	10.5
11. 保護者の協力と理解	13.3	20.0	23.9	3.0	10.5
12. 地域の人材の確保	35.1	55.0	46.9	16.5	42.1
13. 時間枠の捻出	43.4	20.0	41.6	58.5	21.1
14. 特になし	1.1	0.0	2.7	0.6	0.0
15. その他	3.5	1.3	4.4	4.3	0.0

全体 N=376
 小学校 N= 80
 中学校 N=113
 高校 N=164
 その他 N= 19

※ ここでは「該当するものをいくつでも」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢1～15パーセンテージの合計は100%にはならない。【13】と同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 情報不足	12.3	26.0	53.4	50.8
2. 準備期間の不足	19.8	39.7	19.3	32.8
3. 指導助言者の不足	21.0	32.9	20.5	21.3
4. 教材・資料等の不足	34.6	40.4	31.8	24.6
5. 費用・予算の不足	67.9	58.9	40.9	26.2
6. 教師の意欲，共通理解の不足	22.2	47.9	52.3	42.6
7. 担当者の人選，配置	21.0	26.7	47.7	37.7
8. 教師への負担増	48.1	45.2	52.3	42.6
9. 児童生徒の安全確保	48.1	45.2	17.0	8.2
10. 教師ごとの指導のばらつき	21.0	22.6	15.9	13.1
11. 保護者の協力と理解	22.2	17.8	3.4	4.9
12. 地域の人材の確保	44.4	43.2	22.7	21.3
13. 時間枠の捻出	21.0	41.1	55.7	60.7
14. 特になし	0.0	2.1	0.0	1.6
15. その他	3.7	2.7	4.5	3.3

導入済 N= 81

H12より N=146

H13以降 N= 88

検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 情報不足	8.3	15.9	5.7	28.2
2. 準備期間の不足	13.9	38.6	25.7	39.7
3. 指導助言者の不足	13.9	47.7	22.9	28.2
4. 教材・資料等の不足	36.1	31.8	37.1	52.6
5. 費用・予算の不足	80.6	54.5	60.0	64.1
6. 教師の意欲，共通理解の不足	22.2	25.0	17.1	55.1
7. 担当者の人選，配置	5.6	11.4	31.4	33.3
8. 教師への負担増	38.9	34.1	60.0	48.7
9. 児童生徒の安全確保	55.6	63.6	48.6	44.9
10. 教師ごとの指導のばらつき	16.7	25.0	22.9	23.1
11. 保護者の協力と理解	22.2	18.2	25.7	23.1
12. 地域の人材の確保	44.4	63.6	45.2	48.7
13. 時間枠の捻出	16.7	22.7	25.7	47.4
14. 特になし	0.0	0.0	0.0	3.8
15. その他	0.0	2.3	8.6	2.6

小学校導入済 N= 36

小学校未導入 N= 44

中学校導入済 N= 35

中学校未導入 N= 78

【23】「総合的な学習の時間」の実施に当たってどんな情報やサービスを求めていますか。以下の中から該当するものをいくつでも選んでください。

1. 先進事例やカリキュラム開発等に関する情報
2. 指導助言者によるコンサルティング
3. 教職員の研修
4. 教材・教具の情報や開発のノウハウ
5. 指導に使用する機器の貸与
6. 文部省や教育委員会の指導事例集
7. 特になし
8. その他

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 先進事例等の情報	67.8	55.0	61.9	78.0	68.4
2. 指導助言者のコンサルティング	29.3	40.0	31.9	23.8	15.8
3. 教職員の研修	61.2	51.3	59.3	68.9	47.4
4. 教材・教具の情報等	41.8	53.8	44.2	36.0	26.3
5. 使用機器の貸与	17.8	27.5	24.8	10.4	0.0
6. 文部省などの指導事例集	22.6	21.3	11.5	32.9	5.3
7. 特になし	4.3	2.5	3.5	4.9	10.5
8. その他	4.5	5.0	7.1	3.0	0.0

全体 N=376
 小学校 N= 80
 中学校 N=113
 高校 N=164
 その他 N= 19

※ ここでは「該当するものをいくつでも」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢1～8のパーセンテージの合計は100%にはならない。【13】と同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	全体	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 先進事例等の情報	67.8	46.9	66.4	79.5	82.0
2. 指導助言者のコンサルティング	29.3	28.4	36.3	20.5	26.2
3. 教職員の研修	61.2	39.5	68.5	69.3	60.7
4. 教材・教具の情報等	41.8	37.0	51.4	37.5	31.1
5. 使用機器の貸与	17.8	28.4	19.2	11.4	9.8
6. 文部省などの指導事例集	22.6	7.4	19.9	37.5	27.9
7. 特になし	4.3	9.9	1.4	4.5	3.3
8. その他	4.5	7.4	4.8	3.4	1.6

導入済 N= 81
 H12より N=146
 H13以降 N= 88
 検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 先進事例等の情報	44.4	63.6	48.6	67.9
2. 指導助言者のコンサルティング	30.6	47.7	25.7	34.6
3. 教職員の研修	41.7	59.1	34.3	70.5
4. 教材・教具の情報等	50.0	56.8	28.6	51.3
5. 使用機器の貸与	27.8	27.3	31.4	20.5
6. 文部省などの指導事例集	11.1	29.5	5.7	14.1
7. 特になし	5.6	0.0	8.6	1.3
8. その他	5.6	4.5	11.4	5.1

小学校導入済 N= 36
 小学校未導入 N= 44
 中学校導入済 N= 35
 中学校未導入 N= 78

【24】「総合的な学習の時間」の実施に当たって、今後どのようなことが問題になると思われますか。

以下の中から該当するものをいくつでも選んでください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 教師の認識の違いや連携 | 2. カリキュラム編成 |
| 3. 教科のねらいとの調整 | 4. 指導時間の確保 |
| 5. 教材の作成 | 6. 地域の特性や人材の活用 |
| 7. 指導方法 | 8. 評価方法 |
| 9. 児童生徒の基礎学力 | 10. その他 () |

○学校段階別集計

	全体	小学校	中学校	高校	その他
1. 教師の認識の違いや連携	52.4	40.0	52.2	61.0	31.6
2. カリキュラム編成	59.0	45.0	61.9	63.4	63.2
3. 教科のねらいとの調整	32.2	32.5	28.3	32.9	47.4
4. 指導時間の確保	39.6	30.0	32.7	50.6	26.3
5. 教材の作成	31.1	27.5	31.0	33.5	26.3
6. 地域の特性や人材活用	37.2	45.0	46.9	25.0	52.6
7. 指導方法	38.8	36.3	34.5	44.5	26.3
8. 評価方法	56.1	62.5	54.9	55.5	42.1
9. 基礎学力	28.5	45.0	39.8	13.4	21.1
10. その他	4.0	7.5	6.2	1.2	0.0

全体 N=376
 小学校 N= 80
 中学校 N=113
 高校 N=164
 その他 N= 19

※ ここでは「該当するものをいくつでも」という指示を行っているので、各学校段階の選択肢1～10パーセンテージの合計は100%にはならない。【13】と同様の読み取りをしていただきたい。

○導入段階別集計

	導入済	H12より	H13以降	検討中等
1. 教師の認識の違いや連携	43.2	52.7	62.5	49.2
2. カリキュラム編成	50.6	56.8	62.5	70.5
3. 教科のねらいとの調整	34.6	28.1	39.8	27.9
4. 指導時間の確保	22.2	39.0	46.6	54.1
5. 教材の作成	17.3	4.2	38.6	31.1
6. 地域の特性や人材活用	42.0	42.5	31.8	26.2
7. 指導方法	33.3	39.7	45.5	34.4
8. 評価方法	67.9	50.7	54.5	55.7
9. 基礎学力	35.8	39.0	19.3	6.6
10. その他	4.9	6.2	1.1	1.6

導入済 N= 81
 H12より N=146
 H13以降 N= 88
 検討中等 N= 61

○学校段階・導入段階クロス集計

	小学校		中学校	
	導入済	未導入	導入済	未導入
1. 教師の認識の違いや連携	41.7	38.6	40.0	57.7
2. カリキュラム編成	41.7	47.7	54.3	65.4
3. 教科のねらいとの調整	36.1	29.5	28.6	26.9
4. 指導時間の確保	13.9	43.2	28.6	33.3
5. 教材の作成	19.4	34.1	11.4	39.7
6. 地域の特性や人材活用	33.3	54.5	51.4	46.2
7. 指導方法	36.1	36.4	22.9	39.7
8. 評価方法	72.2	54.5	68.6	50.0
9. 基礎学力	33.3	54.5	40.0	39.7
10. その他	5.6	9.1	5.7	6.4

小学校導入済 N= 36

小学校未導入 N= 44

中学校導入済 N= 35

中学校未導入 N= 78

【25】「総合的な学習の時間」の実施に対して、何を期待しますか。（自由記述）

回答用紙にご記入ください。

○自由記述

小学校

- ・表現力の豊かさ心身共に豊かな子
- ・「人権意識」「環境意識」「生命尊重の意識」「仲間意識」がより高まってくることを期待している。また、「友だちと考えや取り組みを交換する力」や「情報を活用する力」や「外部の人とかかわる力」などがつくことも期待している。
- ・子供たちが体験的な活動や自分の課題を解決する力を身につける過程を通して、自分から学ぶ意欲や学び方を身につけ、学校生活や社会生活の中に生かしてほしい。
- ・本校では25年前から総合学習を実践していますが、新しい総合学習の意義として、次の三点を考えています。人間形成、新しい実践課題への挑戦、新しい学びの形成
- ・地域ごとに、各学校が共通に利用できる人材バンク情報を一括して提供できるようなシステムができることを期待する。国際理解などの課題が示されているが、そのように分類できない。たとえば自然教室のような体験そのものなど、これまで学校独自につちかってきた教育活動で「特活」とか「教育課程外」に位置づけられてきた活動などを「総合」の中にもりこむことを認めてほしい。
- ・どの学校も、自らの教育スタンスを明確にし、主体的に取り組むことにより、個性的なカリキュラムによる豊かな教育が実施、実践されること。学習における「子どもの真なる学び」の姿がどの教師にも広がり、それが教科学習にもよい影響を及ぼすこと。
- ・事例を求める学校が多すぎるため、ノウハウ、マニュアル的なものが出回りすぎている。学校独自のカリキュラム、オリジナルなものをつくり出していくなかで、本当の総合がうまれてくる。そこを期待したい。
- ・総合的な学習の時間で行われる子どもたちの主体的な追求学習をより深めるため、各教科ごとの指導内容の精選と充実。
- ・教科で培った基礎・基本を活用しながら「生きる力」を身に付けること。本校教育のアイデンティ

ティに沿った子ども像に迫ること。

- ・教材、資料等の充実
- ・総合で培う力、生かされる力についての研究が進むこと→教科再編へ生き方を考えていくための学習過程の在り方。内省に至るふり返りの在り方。小中高の連携の在り方
- ・目新しいテーマ、目新しい活動、実践の形や方法ばかりが問われるのではなく、そこで子どもがなにを、どんなふうに学んでいるのか、それが子どもにどんな力となって働くのか、内容、考え方、学びそのものについても考える体制が整ってほしい。
- ・出会いの感動と、多様な体験
- ・今まで教科・道徳・特別活動を中心に研究を行ってきたが、「総合的な学習の時間」が加わることで、カリキュラムを含む、学校教育全体の見直しを行う必要性が高まってきた。生徒指導面、学校行事、地域との連携、幼稚園や中学校との連携、保護者との連携などを見直すことで、子供たちをとり巻く環境が、どんどんよくなってきているようである。そういう意味で「総合的な学習の時間」の実施は、たいへん意義深いものであると考えている。
- ・教科学習においても従来の教科の目標、内容に加えて、総合学習の体験を生かしていくようなアプローチを考えていく必要があると思います。学校が開かれていくということが具体的に目に見える形で表われるとよいと思います。
- ・真の学ぶ力を身につけた子ども
- ・激しく変化する社会において、本当の生きる力が育つ時間になることを期待します。そのためにも、指導者は、子供一人一人のはぐくみたい資質・能力をしっかりともって授業に取り組むようにしたいものです。
- ・問題発見から解決までの過程を通して、教科学習の時間では十分に身につけさせることができにくかった学力を育成することができるものと期待しています。例えば、多面的、多角的、総合的にものごとを認識する力、情報を活用、生産する力など、これからの複雑化する社会を生きぬくうえで直接的に生きて働く力となりうる能力、資質をカバーすることになるのではないと考えています。しかし、「総合的な学習の時間」に育成されるこうした新しい学力が、社会一般に受け入れられ、評価されるためのコンセンサスが得られるよう教育の現場だけでなく社会全（以下、読みとり不能）
- ・子供の自主的な学びが保障され、「生きる力」がのびていくことを望む。
- ・小・中・高・大学の連携。高校・大学入試における総合学習に関わる評価

中学校

- ・教師の意欲的な取り組み、生徒の自主的な参加。
- ・現在期待することはほとんどない。実施に伴って心配なことは、学力の低下、教師と生徒の信頼関係を築くための教師の努力の大きさ。生徒がこの時間にどれだけ対応できるか、能力的な面（個人差）での教師の対応。
- ・特になし
- ・子どもたちの知的好奇心を刺激し、いきいきとした学習活動、個を生かし、自己実現につながる体験活動に結びつけたい。
- ・新教育課程のねらいと主旨を踏まえ、「生きる力」となる、「自ら学び自ら考える力」を育成する時間となるよう、教育効果を期待したい。子どもたちが生き生きと、伸び伸びと学習活動ができる、カリキュラム作りを考えている（期待している）。
- ・自分の目指すものが見える生徒が育つこと。自分の考えていることを的確に表現することが出来、うまく相手に伝えることのできる生徒が育つこと。自分を取り巻く状況を正しく判断し、行動できる生徒が育つこと。教師と生徒の関係がさらに円滑になること。
- ・生徒及び教師の夢や希望、思いや願いの実現・生徒の主体的な学習活動・物事を総合的にとらえ、思考し、判断する能力の育成・問題解決能力の育成・教育活動全体のゆとり
- ・自己実現に意欲的で、社会の変化に対応できる力が育つ。

- ・生徒の表現力の向上・生徒の生き方を培う。
- ・ 1. 教師の研修意欲の向上 2. 生徒の学習意欲の向上 3. 各教科の授業の充実 4. 特色ある学校づくりの充実 5. 地域との交流 6. 学習環境整備の充実
- ・今後育成を目指す能力・態度がより明確化されること。学校と地域・家庭との役割分担が明確化された上で、相互の連携が図られるようになること。これまであまり重視されなかったように思われる「方法知」が重視されるようになること。(逆に、「生活知」からの「学校知」に対する批判をはねかえす論拠をまとめられること)生活科の問題点が明らかにされ、教科の役割が見直されること。カリキュラム開発、カリキュラム評価の考え方が広まること。
- ・「総合的な学習の時間」を実施することによって次のことを期待します。教師の指導観が「内容知」から「方法知」へとかわること。21世紀に必要なとる学力、例えばメディアリテラシー（コンピューターを使いこなせる能力）、英語によるコミュニケーション能力、福祉・ボランティアの実践力、環境問題について常に課題意識を持って生活する力、などを育成できること。「学び方」を学びながら、情報活用能力や発表力・コミュニケーション能力を身につけさせること。
- ・生徒の自主、自立・生徒の心の充実
- ・生徒の自発的・主体的活動を促すことによって自己表現や社会性が身につくことを大いに期待しています。同時にこれらを遂行することによって広がる教員自身の生徒への支援能力の向上を期待しています。
- ・生徒が学校生活に対して、今まで以上に興味を持った取り組みができることを期待しています。生徒がのびのびと、学校での生活に存在する場をさらに多く設定することができるよう、教育課程の編成を推進していきたい。
- ・当校では、下記2つの課題を活動の中心にすえて取り組んでいく予定です。①主体的に判断し、めあてを持って行動することができる生徒の育成。②望ましい人間関係を創る能力・態度の育成。「総合的な学習の時間」の活動を進める中で上記2つの能力が育ってくれることを期待しています。
- ・生徒の自主学习による学習の楽しさ
- ・まず、教師のカリキュラム編成能力がいたり、子どもを指導する能力がいたりすることを期待したい。子どもは、主体的に学ぶ姿勢や、課題解決のために、どんな情報を得たらよいかとか、どうまとめたらよりわかりやすいかなど試行錯誤しながら少しずつでも「生きる力」がついてくれればと思っている。
- ・創造的・主体的で心豊かな生徒の育成
- ・総合的な学習の取組みにより、必修教科等での問題解決授業への転換
- ・高校受験体制の変革が図られること。(総合的な学習の時間での学習が活かされるようにしてほしい)
- ・指導要領にうたわれているように、生徒の学びの方法を身につけること。生徒のコミュニケーション能力。
- ・完全に学校に任された形(←本来のねらい・他と足並みをそろえたくない)→外部からの雑音は無用
- ・いろいろな活動にゆっくり時間をかけて取り組ませたい。しかし、余裕はないのではないか。「生きる力」を身につけさせたい。
- ・子供が主体的に活動できるようになること・課題に対して意欲的になって取りくめること・お互いに協力して1つのことを進める力が付くこと
- ・学習観・教科観など「指導」側の変化。学校観の「保護者・地域」側の変化。「勉強」から「学習」への「生徒」側の変化。
- ・生徒の問題、課題意識・問題解決力・追究力
- ・社会的な生活の中でのマナー、エチケットの向上。凶悪事件の減少。ひきこもりの子どもたちの学ぶ場の確保。
- ・生徒が自ら課題を持ち、自ら学び考える学習を行うことを通して、生徒が生き生きと主体的に学ぶ

- 姿が見られることを期待します。また、学習活動に外部講師の力を活用することにより、学びの質を向上させるとともに、地域の教育力の向上を図りたい。
- ・学ぶ力を身に付けさせたい。（「生きる力」の基礎となる力）
 - ・生徒の自主的な課題設定、それにかかわり、自分にとって最も適切な課題設定ができる。
 - ・1学級あたりの生徒数が減らないと個人個人の課題に対応できないので、教員数を増やすか、担当する生徒数を減らしてほしいです。評価が進路につながるような入試法をつくらないと、せつかくの「総合的な学習の時間」がどうでもいい時間になると思います。
 - ・「総合的な学習の時間」のねらいが十分いかしていける教師のゆとりと人員配置と施設の充実（たとえばコンピュータ…現代の20台程度では各教科とのかねあいもあり活用できない）
 - ・身近な地域を題材に環境学習に取り組む
 - ・子供の興味関心を大切に、自ら課題を考え、1人1人がその課題に主体的にとりくむことができるようになる。それによって自分で課題を解決していく姿勢が身につく、豊かな創造性やたくましい実践力がつくと思える。さらに体験的な学習を重視することにより、生徒個々に応じた（探求の）スキルが身につく、生涯にわたって生きる力を養うことができると考える。
 - ・教室外での体験学習を増やし、生徒の興味・関心の持てる活動的な学習体験、地域の人との交流、地域の施設の活用を通じ開かれた学校への実践教科学習のみのせまい学力でなく、「生きる力」を培う。
 - ・児童生徒に問題解決能力、真の生きる力を育むためにどのようにすればよいかを真剣に考えざるを得ないようになるので、この考えを各教科の指導・特別活動の指導でも大いに生かされてくると期待している。（本来は各教科でなされているはずのことなのだが、現にはできていなかった。）
 - ・「総合的な学習の時間」で培われた「課題設定」能力が教科学習へ波及し、さらに、「生きる力」としての力になること。
 - ・移行期で試行錯誤しながら、運営を考えていきたい。
 - ・学習・生活意欲の向上
 - ・学校の本来持つ存在理由である「未来を生きる力」の育成。ただし、大上段に「総合学習」とふりかざし、そのものであるがゆえに現場教師の対応が不安。なあなあで終わると、力はつかない上に基礎学力の低下という事態までまねくおそれもある。
 - ・今までの教科書中心の学習では得られなかったものが身につく。例えば、自分で課題を見つけ、自分で解決していく力がついてくると思う。受動型から能動型になると思う。
 - ・本校のような大規模校で（800人ぐらい）、はたして実施可能なのだろうか。実践例もほとんどない。
 - ・生徒自らが、「学ぼう」とする意欲が出てくること。学力の差はあっても、全員が関心を持って取り組むことができる事への共有感。
 - ・本当に生きる力がつけばよいと思う。
 - ・教師等から指示されたことを単にこなすのではなく、子ども自らすすんで課題を設定し、その解決のための学習（研究活動、調査活動、体験など）に取り組むようになること
 - ・子どもに生きる力が育成されること
 - ・生徒たちが、環境、国際理解、福祉への関心を深めること。他のさまざまな問題、課題を解決しようとする意欲や能力を身につけること。
 - ・生徒自らの活動をどう支援できるか・先進校の発表のようなことができれば、素晴らしいとは思いますが…。
 - ・予算があれば様々な学習ができると考える。（例 調査のためのバス代、図書館・博物館等）
 - ・方法知の習得・人間関係づくりなど
 - ・生徒が「学ぶ意味がある」と感じられるような学習を行えるようになること。総合学習…今日的な学習課程のうちから生徒の興味・関心にもとづいた課題を設定し、総合的に追求していくこと、友人とともに学び、活動し、社会へ発信していくこと。自主研究…個性をいかした探求活動、課題発

見、解決力、表現力の基礎。

- ・この時間の創造的な工夫により、子どもたちにとって学校に意味や価値が見出せること。また、学校の特色が明確になっていくことを期待している。
- ・子ども一人一人が、主体的に他にはたらきかけ、自らのネットワーク力を培いながら、ものの見方・考え方を身につけてほしい。
- ・生徒の表現能力の向上。地域と学校の連携。教職員の指導力の向上
- ・地域や社会に開かれた学校のようにこれまでの学校観が変わること。生徒が楽しく学習し、他者とともに問題を解決していく方法や意味を学んでいけるようになること。
- ・生徒自身のよさの発見、自身の獲得。友人のよさの発見やお互いの学び合い。学び方やものの見方、考え方による新たな知識の創造。特色ある学校づくり。教員の資質向上（カリキュラム・デザイナーとしての）。
- ・総合的な学習を実施することで、生徒たちに生きる力や主体的に学ぶ力が育成されること
- ・学校の活性化と地域とのつながりの深化
- ・生徒が21世紀を生きていくときに「総合的な学習の時間」で身に付けた能力や態度などが「生きる力」として働いてくること。多角的に物事を捉え、生徒が絶えず自己の生き方を振り返りながら問題意識をもって生きていくこと。
- ・学びの転換
- ・既存のカリキュラムを越えた学習ができる可能性があり、これまでの学校教育の限界や不十分な面を補うことが期待できる。反面、これまでの各教科などのねらいとの調整や、基礎的、基本的学力の定着に苦慮する面も出る可能性がある。
- ・個性の伸長。社会生活での望ましい生き方を身につける。進路について深く考えていく場。
- ・原点に帰った真の意味での「学び」を生徒が身に付け、生涯学習の基礎を培うこと。
- ・総合的な学習での取り組みを保護者や地域社会の人々が正しく理解するためには、それを配慮した入試制度の見直しが必要だと思う。これまでの知識・理解の内容を問う入試だと総合は決して定着しないと考える。したがって、総合を配慮した入試へと変更されることを期待したい。
- ・総合的な学習の導入によって、これまで教科指導の中で総合的な色あいで授業してらっしゃった先生も、教科の本質を見直すことになり「教科」に対する認識がより深まると思います。また、このような学習活動が導入されたことによって「学校は何をやる場所か」という根本的な問題も見直せると思います。
- ・総合的な学習を実施することによって、そのねらいである、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」が育ち、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができる」ようになると期待している。本校では、身につけさせたい力として、「課題の発見・選択・設定能力」「課題解決能力」「異年齢での共学、コミュニケーション能力」「情報活用能力」「学習の蓄積とまとめて表現する力」をかかげ実践に当たっている。この学習を進めていく中で、教科や領域と相互補完しながら「生きる力」に結びついていくと考えている。
- ・「生きる力」を身に付けること
- ・「総合的な学習の時間」の新設により、カリキュラム研究の重要性を各教師が意識すること。「総合的な学習の時間」の新設が学校独自のカリキュラム開発に結びつき、魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりが各学校で推進されること。単に調査・体験的な学習活動に終始するのではなく、よりよく問題を解決する力を身につけさせるための評価と指導が具体化されること。
- ・教科の学習に対する生徒、保護者の意識が真の学びを求めるものへと変わっていくことを期待します。それと同時に、高校入試、大学入試などの入試制度が改善されていくことも期待します。
- ・教師が指導の目標、方法、内容を共有し、チームを組んでチャレンジしていくことを通じて、教師間の同僚性や協働体制が進展するのではないかと。学校と地域が太くむすばれ、教育課題をだがいに交換されることによって、相互理解がすすむのではないかと。学校での学びと体験がつながること

によって、授業構成がよりダイナミックなものとなり、教科、学習、学校が魅力的なものになるチャンスが与えられるのではないかと？

- ・障害児の学校であるため、自立活動として、すでに「総合的な学習の時間」が意図しているものは、取り組まれてきたといえる。しかし、時間枠の捻出は減少した授業時間の中で、さらに難しくなり、基礎学力の低下につながらないようにするための工夫が重要となる。この問題点解決の中で、真の学力とは何か、教育界全体で語られるなら、この実施は非常に意義のあるものとなる。今後の経過に期待したい。
- ・期待よりも子どもたちの学力低下が心配である。それを少しでも少なくできるカリキュラムを考えねばと思っています。「総合の時間」もやる以上は教師も子どもも楽しく取り組み、かつ無理のない内容・方法でなければと考えている。
- ・生徒がどのように変容するか その見取り方
- ・上級学校へのつながりが考慮されるように（入試制度）。この時間が本当に生徒の将来にとって役立つ力を育てる時間になるように。
- ・生徒の問題解決力や主体性の向上。総合的な学習から教科の学習を見直すこと
- ・閉塞状況（学級崩壊、いじめ）にある学校での学び（方）を再構築する事ができる。教科指導との関係でカリキュラム全体の見直しが必要となる。
- ・明確な指導・学習ビジョンの確立と評価。高校・大学等への入試改革。教科学習の充実と再構築。
- ・生徒や教師が自ら学び、自ら考え主体的・自律的に生きる力やともに生きる力をはぐくむこと。
- ・教科学習、選択教科統合の有機的関連がはかれることを期待していますが、これが一方の課題だとも考えています。

高校

- ・大学側が「総合学習」を評価しない限り、「必修クラブ」と同様の運命を辿るように思われる。
- ・研究中
- ・期待より不安の方が多い。
- ・特になし
- ・生徒の自主的・自発的な活動の促進につながる事。
- ・生徒自身が情報を取捨選択し、学習（実践的・体験的・実験的・科学的）を通して、自らの「生きる力」を育成してほしい。（「総合的な学習の時間」はプラグマティズムに基づくと考える。）
- ・生徒の問題意識の深化、拡大による目標達成への意欲的な取り組みを期待する。
- ・特になし
- ・体験、生活感、生きる力
- ・教科の枠をこえた総合的な学力を生徒が身につけることによって人間らしく生きていく力が育っていくこと。大学入試等も教科をこえた総合的な学力を見るように変化していくこと。「総合的な学習の時間」を有効なものにするためにも基礎学力はきちんと身につけさせること。
- ・教科のわくを越えて社会に対してはっきりした考え方をもち意見を述べる事ができる育成ができることを期待します。
- ・生徒の職業観を育成する時間になればと思っています。自分の進路を決定する時に自己の適性や能力を的確に把握し、将来の職業を考えながら選択させることが必要だと思います。ところが職業を考える際には、生徒はあながちイメージだけで考えてしまうので、具体的に職業というものを考えさせることができるように総合的な学習の時間を活用できればいいと思います。
- ・就職指導など進路指導の一環として位置づけたい。
- ・生徒が伸び伸びとボランティア活動に汗を流して、社会奉仕で得られる感謝と充実感に喜びを感じることを期待します。
- ・知的好奇心旺盛な生徒が増加してくることを期待している。
- ・十分なる成果がでること。

- ・予算措置が何よりも必要。(講師謝礼など)。福祉やボランティアについては町当局の配慮によってバスを提供してくれている。
- ・自主、自立的な活動を通じて考える力が養われることを期待したい。
- ・各学校の特色を生かすということに重点がおかれているので、先進事例は参考にしながら、校内の先生方の発想に期待している。最初の実践は失敗覚悟で積み重ねを重視していきたい。
- ・大学入試との関連での取扱いが心配である。評価、入試にどのように生かしていくのか。
- ・特にありません
- ・平成13年度実施にむけて、平成12年度委員会にて、内容、方法、評価の仕方等を検討していく予定である。とにかく、情報が不足しているので、期待感よりは危惧の念の方が強い。
- ・生徒の目的意識、目標設定という学習の意義を認識させるとともに自ら調査研究していく態度を養う。
- ・特になし
- ・生徒の自発的な問題解決の基盤ができること。教師の教科を越えたものの見方ができるようになること。
- ・学校独自の活動が認められ、特色づくりが進む。
- ・【17】～【21】、教員の共通理解ができておらず回答できません。
- ・いわゆる「規制緩和」が可能であれば、得るものが大きいと思われる。学校を離れ、例えば国会図書館や、大学、研究所等の施設を利用すれば、高校生にとってすばらしい学習になると考えられる。しかし、現状では生徒の安全、教員の引率、出欠席等の問題があり、不可能に近いと思う。生徒自らが学び、発見することを期待したいが、現実問題として、前述の「規制緩和」を期待したい。
- ・教師間の意識の共通化を図り、生徒にとって真に有効な時間となることを期待する。今、生徒によって本当に必要な力は教科内で完結できる範囲を超えている。今回の指導要領改訂により、横断的、合科的学習活動が高校段階でも可能になったことから、21世紀を生きる生徒達に、真に求められている力をつけることができるようになったと考える。教師の共通理解を深め、有益な時間の実現を期待する。
- ・総合的な学習の時間の趣旨である、生徒の問題解決能力が育成され自ら進んで進路実現で図れるような資質が伸長すればよいと思います。また、この時間の実施により本校の教職員の「学校の将来像」に対する意識の強化が図れるよう期待します。
- ・特になし。
- ・自ら学ぶ意欲や態度、または、いわゆる学び方を学ぶ学習活動が培われることを求める。
- ・特に普通科では、大学受験への学力の低下をまねかないか、指導時間の確保が難しい。いわゆる理想的な「総合的な学習の時間」になるか、普通教科の補充のような時間になるか、激論が予想される。
- ・既存の教科指導では不十分な、生徒の意欲・活動等を発揮させる場となり、教育全体が大きく変わっていくと思われる。
- ・国語や数学、芸術などの従来の教科の中から、総合学習として発展させる教材のモデルを作りたい。また、大学入試の制度が変わらないと十分成果のあがる導入は不可能と考える。
- ・本校は平成7年に総合学科を開設し、教育課程に総合という教科とその中に「課題研究」という科目を設けた。この科目は3年生で学習するもので、学習活動のねらいは生徒が興味・関心・進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動を行うこととしている。この「課題研究」を実施して3年目を迎えたが、これを新教育課程の「総合的な学習」に結びつけていくことにしている。生徒のこの科目に対する学習活動は活発で高い評価を与えることができる。ただし、この「総合的な学習」が成果をあげるためには教師の意識改革が伴わなければならないと思う。
- ・学習を通して生徒が自己の将来に対して意欲的に取り組める力を付けたい。
- ・生徒のゆとりある学習が円滑に進められること。学力低下との調整がうまくいけるような企画。

生徒が自ら進んで行動できる力を身につけること。

- ・特になし
- ・受動的に知識を身につけるだけでなく、それらの知識を活用し、様々な課題を解決しようとする態度や解決する能力を身につけた生徒が育つこと。
- ・普通科高校ではやはり大学受験を意識せざるを得ないので、受験への発展と動機づけを期待する。
- ・生徒が学習上で疑問をもったとき、その解決のために、どのようにして調べたらよいか、その方法を学び、積極的に学習に取りくむこと。また、自分の考えを小論文等でわかりやすく、理路整然と表現する力を期待する。
- ・学力重視の教科科目の学習とは違い各生徒の意欲や行動する能力を育成する機会になればと期待する。
- ・本校でも昨年（11年度）に研修会を実施し、本年度から検討委員会を立ちあげ、13年度実施に向け、取り組んでいるところですが、この「時間」の持つ理念と本校・地域の実態を如何にミックスさせるかに苦慮しています。この「時間」のみならず、あらゆる教科や教科外活動の場において、「生きる力」「主体的に考え、行動できる生徒」が育成できることを期待します。
- ・環境問題など社会的問題に生徒が関心を高め、解決の方向性を考えるきっかけとなってほしい。自分の進路決定が将来設計の中で確実に位置付けできたものになること。「総合的学習の時間」の活動が「読み」「書き」「考える」の基礎的力を伸ばすものであってほしい。
- ・本校独自の特色ある教材及び実践を通じて、生徒自身が自ら学び自ら考える力を身につけてくれることを期待している。
- ・生徒の自主的活動の活性化・テーマに対する生徒の一層の興味と関心を高める。
- ・進学校の実態に合わず、扱いに苦慮している。CAと同じ道をたどる危惧を持っている。慣れないものに対する負担感が大きい。実際、人は増やさず負担増となることはまちがいでなく、期待するものは少い。
- ・「生きる力」が身につく、将来に生かされる学力をつけたい。
- ・平成12年度、校内に「新教育課程研究委員会」が発足する。そこで様々な議論・研究がされることになるため、現在のところまだこの欄にはまだ書ける状況ではない。
- ・生徒が自ら育つ力を認識し創造的に活動するようになる。教員は、それを見て固定観念を崩し視野を拓ける。以上を合わせて学校の活性化につなげる。
- ・期待できない。（進学校で、本当に実施されるかどうか、不安である。）
- ・期待より不安の方が大きい。
- ・各学校の自主編成・運用が出来るものにしてほしい。
- ・先進事例などの情報が「モデル化」となって、全国的に同じような取り組みばかりになってしまわないかと思う。都道府県教委事務局の制約を、出来るだけ無くして、学校裁量にまかせて欲しいと願う。
- ・特になし。やれば興味深い授業になるであろう。
- ・学校の学習はさっぱりなのに原付免許等運転免許は一発で合格して来る生徒を見るにつけ、好きこそもの上手のたとえ通りを実感する。日頃の学習活動とは異なるが自分の特性、適性を伸ばしていく事の大切さ・喜びを知っていけばいいと思う。
- ・受身でない能動的な学習態度の育成
- ・生徒の主体的な取組みの伸長。
- ・生徒の自己啓発力がつくのではと期待している。
- ・主体的で実践力のある生徒の育成
- ・地域の人々や企業との交流の活発化による総合教育力の充実。
- ・深く研究すること、よく考えること、広く考えること、などの姿勢や態度が育っていくのではないか。学校外の人々に接する中で、いろんなことを体験することによって、学校での学習の必要性や、意欲の増進につながってゆくのではないのでしょうか。社会の現実の問題点を知ること、

自らの進路を考えるきっかけにもなりうる。

- ・「課題研究」との関わりの中、「総合的な学習の時間」の位置づけと単位数について苦慮している。
- ・普通科進学校等で「総合的な学習の時間」が形式的なものにならない様期待する。
- ・現在係として研修を行っているが、本校に導入するのは非常に難しい。近くに高校が3、小中もあり、地域に出ることは競合をまねく。校内にはインターネットにつなぐことはできていないし教室も不足していて現状ではとても課題学習はできない。
- ・各教科の指導では、得られない各教科の内容にまたがった研究や事例の学習による学力の育成。討論や発表に関する力の育成。
- ・学力観の変化。大学入試をはじめ、さまざまな評価、価値観が変化することを期待する。
- ・「学校」が「楽しく」「開かれた」場所となること。
- ・特になし
- ・自分で問題を設定し自分で解決方法を見つけることができるようになる体験となること
- ・学校、生徒の実態に応じた自由裁量の大幅増加。
- ・生徒が主体的に物事に取組む姿勢の育成と進路学習の充実
- ・生徒たちの生涯学習の基礎づくり・カリキュラム開発・社会の変化に主体的に対応する能力の育成。学校のさらなる特色化
- ・国際理解や環境、福祉などのテーマを通じて従来型の教科中心の知識ではなかなか獲得できにくかった考える力や判断力そして探究する力などの習得とおもいやりの心、感動する心などの「豊かな心」の育成を期待したい。特に本校においては、従来からの中国西安高級中学との交流を行っているのをこれを総合的な学習の時間にきちんと組み入れるとともに地元の普通寺市が全国に先駆けてゴミの分別収集などの環境行政に積極的に取り組んでいるので地元行政との連携をますます強め、本校の特色を全面に出すいい機会にしたい。
- ・各教科ごとなどの専門的な深い理解よりは、教科ごとの知を統合していくような“総合的な知”の育成と、自ら学ぶ態度の育成、さらに自ら学ぶためのスキルの獲得。
- ・教科科目の領域のあいまい化は指導内容のあいまい化であり、「なんでもありのなんにもなし」にしかならない。教育は均質であるべきと考える。差別化は公的な教育機関には矛盾すると考える。学力の低下をこそ問題とすべきであるのに、生きる力などというあいまいな部分に逃れているように思われる。中には成果をあげる所まででこようが、そんな一輪の花にだまされて多くの他の花をしおらせることを懸念する。
- ・よりたくましい生徒への成長。
- ・生徒自らが考える態度を養う。教師が日頃研究している学問的なものを生徒とともに研究する。
- ・自分の在り方・生き方を探求することにより、社会の中に位置づいた進路意識を確立する。自分の進路に関連する教科横断的な課題研究を通して、知識の総合化をはかるとともに問題解決能力を育成する。集団社会への参画と積極的な係分担の活動を通して、実社会における実践的な行動力やリーダーシップを育成する。
- ・指示待ち族でなく、自分の力で考え、行動できる人間の育成
- ・本校の教育目標を体現できる人材の育成 1. 地域・国・世界のリーダー養成。国際理解、地域研究（郷土学）を充実させ人格を高める。 2. 骨太の人材育成。たくましく生きる力を培う。課題発見、課題解決を重視し自己開発力を養う。
- ・社会人となると、解決したり改善したりするたくさんの問題に直面する。経験して学ぶこともあるが、それぞれの場で直面する問題をどう解決していくべきかの方法を学ぶことができるようになること。
- ・目的意識の明確化→生きる意味についての思考の深化→生きる力の自己育成。
- ・高校で学習する内容が、有機的に関連し合っていること、またそれを通じ、生徒の探究する態度が養成されるような時間になってほしい。
- ・現在までの研究活動の中から、以下の3点が期待できるのではないかと考えている。①生徒が総合

- 的な学習の研究活動を通して、自らの生き方・在り方を学べるのではないか。②主体的な学習の姿勢を身につけ、行動することができるようになるのではないか。③自分の考え方をまとめ、発表する活動を通して、周囲に情報を発信し、共有する力を身につけることができるのではないか。
- ・生徒ひとりひとりがもっと積極的に国際問題や国内の政治問題などについて考えるようになること。
 - ・生徒－教職員の心の交流・生徒に広義での社会性と時代をになう生きる力を身につけさせたい。
 - ・生徒達の自発・自立的な学習意欲や態度等期待したい。
 - ・21世紀を生きぬくための自己教育力を育てる。問題解決能力や創造力をつける。(自分で考え、自分で行動することができる。問題を見出し、それを解決していく力を養う。)
 - ・まだそこまで考えていない
 - ・「環境研究」を通して、環境保全の心を育成し、自ら学び考える「生きる力」を生徒達に身につけてもらいたい。
 - ・本校は平成9年度から65分授業で取り組んでいるが、「総学」をとり入れることにより、授業に広がり深まりをもたせ、学問を体系的に捉える力を養っていききたい。校内における諸活動に有機的な流れを作り、生徒一人ひとりが「豊かな創造性」を育む支援となる取り組みを工夫していきたい。教師自らの意識改革と資質の向上。生徒一人ひとりが他者に対する思いやりの心を持ち、自ら考え、自ら学び、主体的に判断し行動できる力を養っていききたい。
 - ・所定の成果をあげ、新しい時代と地域の要請や期待にこたえたい。
 - ・生徒の興味関心のある題材に取り組みせることによる学習意欲の向上と実践的力の育成
 - ・計画、目標を設定し、実施すれば効果は大であろうが、指導者の認識不足、計画不足でやれば、その逆であろう。「総合的な学習時間」に関して、研修・発表会に教員を派遣する余裕があることがのぞまれる。
 - ・生徒個人の人々の身近や地域、あるいは日本や地球全体で、今何が問題になっているのかを知る。それを解決するためには、どうすればよいか、そのためには自分は何ができるかを考える。その問題を解決するために、あるいはこれから生じるであろう様々な問題に対応するために、自分は高校生活で何をどのように学ぶべきなのかを理解する。この3つの力を養成したい。
 - ・自ら求めて学び進んで社会に貢献する人間性豊かな生徒が多くなること。
 - ・「生きる力」の向上。「自己自身」を知る。「自分の進路」について、深く考えることで、なるべく無駄や後悔のない人生を送って欲しい。
 - ・生徒自ら、豊かな人間性と逞しく生きる力を培い、自己の生き方、在り方、進路について考えられることができる。
 - ・社会の中で生起するいろいろな出来事を自らの力で分析・判断し、将来の人生設計に資すると共に人間性を豊かにしていく学習にしたい。
 - ・移行措置として平成12年度より教育課程に位置づけただけで、詳細については全て今後(4月以降)検討予定である。
 - ・地域の伝統文化の継承・自ら企画し、行動できる力の育成。
 - ・本校では既存の教科の枠にははまらない授業の試みを以前から行っている所以他们の教科の位置付けが明確になり、活動しやすくなる。
 - ・他の既設教科科目との共存、バランスのとれた教育の実施が可能になるよう、全体を見通したマニュアルができることを望んでいます。特に高校の事例が極度に少ないのが、実施の最大の問題です。
 - ・学びの転換
 - ・この時間を通しての新しい学校作り(学校文化・伝統)を期待したい。
 - ・自立的な学習態度の育成。積極的に自己表現する態度。教科の学習に結びついていく学習。教科にまたがる領域、教科からはみでる領域を総合的に学習し、再び教科に還元できること。
 - ・本校においては、現行の原則履修科目である「課題研究」を「総合的な学習の時間」に移行させることは比較的容易である。

- ・いわゆる集中講義的な設置が可能かどうか。その際の時数のカウントは現場裁量でよいのかどうか。
- ・「生き方」を根底においた総合学習の取り組みで従来の進路指導が変化する高校教育の現場では「生徒の学びからの逃避」がいわれて久しい。それは「学校化の忌避」が背景にある。高校生を支えるのは多様化したサブカルチャーである。「学校文化」の再生が図られねばならない。「個性を伸ばし社会的自立と将来への目的意識」を育てねばならない。従来の偏差値に依存した進路指導ではない。教科指導を統合化することによる高校教育の再生の手段が「総合的な学習の時間」に期待できる。教師の変化が学校の変化となるからである。

その他

- ・子どもが、自分の思いを十分表出でき、生き生きと活動する姿。
- ・障害児（者）の社会自立に向けたより実践的な活動・学習の場として活用したい。
- ・体験を通して、自分の生き方を考えると同時に、自分になにができるかを追求し、意欲や自信を持ってもらいたい。
- ・教師の創造力。地域の人的資源。
- ・これまでの合科総合の指導形態では押さえきれなかった現代的な教育課題への対応。新しい学習内容の創出。
- ・附属校として、大学の人的・物的資源を活用した取り組みを行っていききたい。
- ・知的障害養護学校では、従来より領域教科を合わせた指導を行っており、とくに大きな変化とはとらえにくい。合わせた教科との違いや関わりの方が問題になっている。これまで養護学校で行われてきた主旨が、普通校でも取り入れられることについては、期待しております。
- ・子どもたちが、主体的に学習活動に関わることで、そこで必要な生活技能を身につけることができることを期待する。
- ・主体的に考え、行動し、学ぶ力の育成。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、各教科の学習においても体験的な学習、問題解決的で主体的な学習がもっともっと重視されてこそ、生きた学力を身につけることができる。基礎学力を身につけていく過程でもこの様な観点が重視されることで学ぶことが楽しいことと感じられるようになってほしい。
- ・これまで取り組んできた学習と、これから行う学習をどのように区別し、実施していくか。過去何十年にわたって総合的な学習で言われていることを実践してきたと考えているので…。
- ・障害をもつ生徒も、地球人として環境問題について考え実践できるようになれば素晴らしいことであると思う。また、卒業後の生活がより充実したそして豊かになるように、レジャースキルやおしゃべりについて学んでおくことも大切だと思う。